

# 年次報告書2021



特定非営利活動法人

自立生活センターSTEPえどがわ



01 <sup>りじちよう</sup>理事長あいさつ ..... 3

02 <sup>ねん じぎようほうこく</sup>2020年事業報告

① <sup>じりつ しえん じぎよう</sup>自立支援事業

- 1) ピア・カウンセリング ..... 5
- 2) <sup>じりつせいかつ</sup>自立生活プログラム <sup>あいえるびー</sup>(ILP) ..... 6
- 3) <sup>じりつせいかつたいけん</sup>自立生活体験ルーム <sup>やってみ ~ な</sup>「Yattemi ~ Na!」 ..... 6
- 4) <sup>そうだん</sup>よろず相談 (なんでも電話相談・個別相談) <sup>でんわそうだん こべつそうだん</sup> ..... 7
- 5) <sup>じひ</sup>自費による介助派遣 <sup>かいじよほけん</sup> ..... 8

② <sup>けんりようご</sup>権利擁護・<sup>ふきゆうけいはつ</sup>普及啓発

- 1) <sup>じょうほうほしょう</sup>情報保障
  - 1. <sup>じょうほうほしょう じゅうじつか しんちよく</sup>STEPの情報保障の充実化の進捗 ..... 8
  - 2. <sup>じる じょうほうほしょう さんかく</sup>JIL 情報保障チームへの参画 ..... 9
- 2) イベント
  - 1. <sup>えいが じょうえいかいほうこく</sup>「だってしょうがないじゃない」映画上映会報告 ..... 10
  - 2. <sup>すてつぷ ぼうさい かん と く</sup>STEPの防災に関する取り組み ..... 11
- 3) <sup>ふきゆうけいはつ</sup>普及啓発
  - 1. <sup>けんしゅうかい</sup>ヘルパー研修会 ..... 14
  - 2. <sup>せんたい えほんせいさく</sup>バリアフリー戦隊ダンサナクセイバー絵本製作 ..... 15
- 4) <sup>こうほうかつどう ほうこく</sup>広報活動の報告 ..... 17

5) STEPえどがわの外部協力	
1. 当事者参画について考える	24
2. 国内旅客船における小型昇降装置の検討	25
3. 東京都相談支援従事者研修検討会	28
6) テレワーク環境整備	30

### しょうがいふくし かいごほけん ③障害福祉・介護保険

1) 利用者数・ヘルパー登録数・派遣時間数	31
2) 利用者さん紹介	
1. 森優月さん	31
2. 大西修平さん	32
3) ヘルパーさんたちの遊び場	
1. 北沢野土花さん	34
2. 原嶋健太郎さん	34

### ようせいけんしゅう ④養成研修

	36
--	----

## 03 その他

1) 新入社員紹介!!!	37
2) 2021 会計報告・2021 活動報告・2022 活動方針	38
3) ダンサなくし隊!!!	45
新会報制度紹介	46

## 01 理事長あいさつ

えぬびーおーほうじんじりつせいかつ すてつぷ  
NPO法人自立生活センターSTEPえどがわ  
りじちよう いまむら のぼる  
理事長 今村 登

2020年度に引き続き 2021年度も世界的なコロナ禍で様々な制限がある中、テレワーク環境をさらに整え、スタッフもオンラインに慣れ、在宅での業務やオンライン会議、研修等がよりスムーズに行うことができました。昨年よりスタッフ、利用者の家族などにPCR検査陽性者、濃厚接触者となった延べ人数は増えてきましたが幸いクラスターになることはなく、収支も黒字決算となりました。これはスタッフ、利用者等関係者の皆さんの感染防止対策の徹底にご協力、ご尽力いただいたお陰であると改めて感謝申し上げます。

また、オンラインを活用した会議等におけるPCテイク者の募集・確保など情報保障に対する取り組みは昨年よりもさらに充実しつつあり、その取り組みはSTEPえどがわ内だけでなく、全国自立生活センター協議会(JIL)の取り組みの一翼を担うなど全国団体の活動にも貢献できつつあります。

こうして皆がオンラインに慣れてきた一方で、講座やイベント等の大人数での開催は行えず、近年力を入れているインクルーシブ防災の一環で予定していた集団広域避難訓練も2年連続で中止とせざるを得ませんでした。これだけ長期にわたる行動制限によるストレスの影響をスタッフ、利用者などの個人にも、社会全体にも感じ、やはり対面での活動の必要性、画面越しではないライブのもたらす有効性を再認識させられた年度でもありました。

今後コロナ禍がどのようなようになっていくのかはわかりませんが、完全な終息を待つというより、どう共存していくかといういわゆる「withコロナ」の構築を意識して活動していきたいと思えます。国際的には、今夏国連の権利委員会による建設的対話(対日審査)が行われ総括所見(勧告)が出されます。これを受けて国内においては、障害者総合支援法の改正をはじめ総括所見をどう

活かすかが注目され、JILやD P I などSTEPえどがわが加盟している全国的な運動団体としては各種の障害者関連法の改正に向けた働きかけがより活発化して行くと思われます。また地元の江戸川区においては、昨年「ともに生きるまちを自指す条例」が制定され、区としてインクルーシブな社会を自指すとしており、この関連でバリアフリー法のマスタープラン策定の検討会が始まっています。こうした社会背景をwithコロナでの活動としていかに確立していくか、今後の状況を見極めながら慎重かつ積極的に判断して取り組んでいきたいと考えています。

まずはその一つとして、今年度は利用者、ヘルパー、その家族、そして関係者等の総勢約50人規模で集団広域避難訓練を実施します。単なる一団体の避難訓練としてだけではなく、多くの関係者を巻き込み検証することで、「わたしが人間であるために」障害者の公民権運動を闘った「私たち」の物語

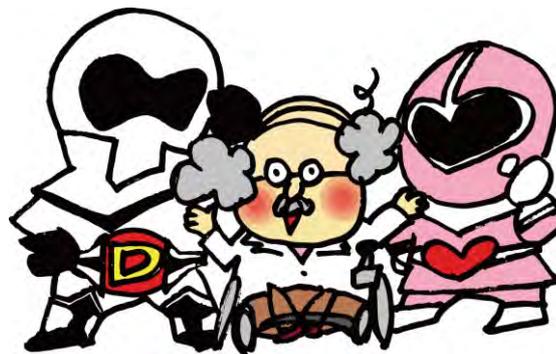
今後のインクルーシブ防災のモデルとなり得る可能性のある事業として期待しています。また情報保障やインクルーシブ教育、まちづくりに寄与するべくバリアフリー演劇の開催、昨年度末に完成したダンサナクセイバー絵本の活用、地元の相談支援事業所等の連携強化などの事業に取り組みます。

変化というものは、私たちが思うようなスピードでは決して起こらない。人びとが一緒になって、戦略を立て、分かち合って、あらゆる取っ手に可能な限り手をかけてみて——そうした年月の積み重ねがあって、初めて変化は起こるものだ。少しずつ、苦しいほどゆっくりとではあっても、物事は動き出す。そして、ある時突然、まるで青天の霹靂のように、変化は起きるのだ。

ジュディス・ヒューマン<著>

曾田夏記<訳>

[電子改訂版] (Japanese Edition)  
(p.266). Kindle 版より引用



## 02 2021年度事業報告

### じりつ しえん じぎょう ①自立支援事業

き ひるかわりょうこ  
(記:蛭川涼子)

#### 1)ピア・カウンセリング講座:自分の気持ちに向き合う時間

2021年度は、講座を実施することは  
できませんでしたが、ピアサポート体制  
加算創設に伴うピアサポーター研修を

通じて、他の障害領域の方々とピア  
交流の広がりを感じることで1  
年でした。

#### <ピアサポーターよ、増えていけ！>

2021年度から、計画相談や就労支援B型の事業所に障害者を雇うと、事業所に  
お金が入るピアサポート体制加算が創設されて、障害福祉業界ではピアサポーター  
に注目が集まっています。

CILは当事者が中心となって仲間の支援をするのが理念のひとつなのでピアサ  
ポートの塊とも言えると思いますが、福祉業界全体でピア(当事者)の力が発揮さ  
れる場が増えていくことで、当事者の声が社会に広がることも期待したいです。  
ぜひご注目を。

## 2) 自立生活プログラム(ILP): 一人暮らしに必要な知識と経験の場の提供 <2021年4月~2022年3月までの実施実績>

利用人数	頻度	内容
5人	毎週:3人 2か月毎:1人 都度:1人	Aさん: 一人暮らしに向けた準備(家探し、時間数のための介助内容の整理) Bさん: 体験ルーム利用のための準備と振り返り Cさん、Dさん: 一人暮らしを継続するために必要なサポートの実施 Eさん: お金の使い方、災害時の避難について

## 3) 自立生活体験ルーム「Yattemi~Na!」

Yattemi-Naは、自立生活を目指す障害者が、地域内にあるマンションにて、実生活体験をすることのできる場所です。部屋には電動ベッドやトイレ・浴室用のリフトの他、ミニキッチンや洗濯機も設置されています。ILPを通して、自分に必要な介助内容を確認したり、

実際に福祉機器を使ったり、普段は家族や施設職員に任せがちな家事の経験もできます。

2021年度もコロナウィルス感染防止のため、前後3日間は間を空けて、使用をしてもらいました。

### <2021年4月~2022年3月までの利用実績>

・自立生活のための利用 3名(1回の平均利用日数3日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	1	2	1	0	0	2
利用日数	3	2	4	0	0	5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	1	1	2	0	1	0
利用日数	4	12	5	0	1	0

## 4)よろず相談(なんでも電話相談)・個別相談

すてっぷ  
 STEPえどがわは、しょうがい  
 障害にまつわる  
 そうだん  
 相談なら、どんな相談でもまずき  
 きます。  
 しょうがいとうじしゃ  
 障害当事者スタッフもかいじょ  
 介助コーディネー  
 タースタッフもかんけいなく、たいおう  
 対応します。  
 おお  
 多くのよろず相談は、たんじゆん  
 単純な問合せ  
 もふく、その場で終わることも多いで  
 す

ぐたいてき  
 が、具体的なサポートがひつよう  
 必要ではない  
 かとはんだん  
 判断されたときは、こべつ  
 個別にじかん  
 時間を取  
 ってたいおう  
 対応をしています。それは、こべつ  
 個別  
 あいえるびー  
 へのI L Pにはってん  
 発展したり、すてっぷ  
 STEPのけんり  
 権利擁護  
 かつどう  
 活動にはってん  
 発展したりしています。

### <よろず相談から個別相談(面談対応)した実績(2021年4月~2022年3月)>

相談者	相談内容
女性 30代 精神	家族とうまくコミュニケーションがとれない
女性 10代 身体	進学について
男性 40代 精神	レスパイトのための体験ルームを利用したい
男性 40代 身体	介助派遣、計画相談の依頼
男性 20代 発達障害	一人暮らしがしたい
女性 20代 難病・発達	介助者がいない
女性 20代 身体	一人暮らしがしたい
男性 50代 身体	ピアカウンセラーについて聞きたい
男性 10代 身体	一人暮らしがしたい
男性 40代 身体	施設を出たい
女性 70代 身体	住居に関する相談
女性 30代 身体	障害福祉サービスに関する相談
女性 30代 精神	不安が多い(話を聞いてほしい)
女性 40代 知的	仲間外れにされている(話を聞いてほしい)
女性 20代 身体	一人暮らししたいけどイメージをつかない
女性 20代 身体	障害福祉サービスに関する相談
女性 20代 身体	差別に関する相談
男性 年齢不明 精神	話し相手になって欲しい(気持ちを聞いて欲しい)
男性 20代 男性	話し相手になって欲しい(気持ちを聞いて欲しい)

## 5) 自費による介助派遣

STEPえどがわでは、十分な支給  
 決定がされず不足する介助時間、障害  
 福祉サービスで認められていないけれ  
 ども障害者の生活にとって必要不可欠

とされる事柄に必要な介助派遣につい  
 て、自費による介助派遣を行っていま  
 す。

利用した人数	11人	派遣時間数	192時間
--------	-----	-------	-------

## ② 権利擁護・普及啓発

### 1) 情報保障

#### 1. STEPえどがわの情報保障の充実化の進捗 (記: 中曾根鈴音・利根川弘美)

今年度はキャプションラインというソ  
 フトを使用し、よりタイムリーで正確な  
 文字通訳を目指すことができました。

キャプションラインというソフトは文字  
 通訳専用のソフトで、入力者間でもフォ  
 ローしやすく、見ているに側もよりタイム  
 リーに文字の情報を得ることができる  
 ようになりました。

以前はzoomのチャット画面や議事録  
 にそのまま入力することで、どうしても  
 タイムラグが生まれてしまっていたの  
 ですが、キャプションラインを使用するこ  
 とで情報の遅れが改善されてきました。

そして何より、スタッフミーティングで

は思わず笑ってしまうようなコメントだ  
 ったりハプニングもあるので、それをよ  
 りタイムリーに伝えることが可能になっ  
 たのは嬉しい進歩でした。

また、今年度はスタッフがキャプション  
 ラインの仕様にどんどん慣れていき、  
 昨年度に比べて文字通訳が出来るスタ  
 ッフが増えました。

文字通訳はパソコンによるタイピング  
 技術が求められるため、もともとタイピ  
 ングが得意な方が活躍するのはもちろ  
 ん、ステップではスマホによる文字  
 入力で活躍するスタッフも居ます。

パソコンは苦手なので、スマホなら…

と、小さな画面で素早い指捌きが見られるのもステップならではだと思えます。

このように、自分の出来る事から始めたり、タイピング練習をしたり、会議の参加者も話す時はペースに気がついたり、皆がそれぞれ出来ることをして協力することで実現している、ステップらしい情報保障だなと感じています。

文字入力に慣れていなくても、自分の出来ることで協力してくれる、スタッフのあたたかくて頼もしい気持ちを感じています。

来年度もどんどんキャプションラインに慣れていき様々な場面で使用できるように経験を積んでいきたいと思えます。

## 2. JILの情報保障チームへの参画(記:中曾根鈴音)

昨年の秋にJIL(全国自立生活センター協議会)の情報保障チームを立ち上げました。

全国の自立生活センターのスタッフから手話ができる人やパソコンの入力がとくいな人を募集して、自立生活センターに所属する聴覚障害のあるスタッフ・情報保障を必要とするスタッフが会議に参加するときなど派遣を行い、会議の主催者が謝金を支払うというシステムを持つものです。

これまではそれぞれが声をかけて

調整してすき間時間で入ってもらって…と依頼をする当事者側もやりづらいたところがありましたが、このシステムができたことでスムーズに情報保障を受けながら会議に参加することが可能になりました。

現在手話サポート5名、文字通訳25名ほどのスタッフが登録してくれています。

今後もより良い情報保障はSTEPえどがわを筆頭に全国にも広めていきたいと思えます。

## 2) イベント

### 1. 「だってしょうがないじゃない」映画上映会報告(記:中曽根鈴音)

2022年1月23日に「だってしょうがないじゃない」映画上映会 & トークショーを行いました。

STEPえどがわが様々なコミュニティと繋がるきっかけの1つになればいいなと4年前から毎年企画しています。



昨年度も、コロナ禍でみんなが集まるのはまだ厳しいと判断したため、完全オンラインの形で開催になりましたが、80人近くの申し込みがありました。

今回の上映映画のテーマは発達障害。STEPえどがわでは、身体障害のある利用者さん・当事者スタッフが多く、発達障害のある人への支援の経験は少なく、まだまだ知らないことが多いこともあり、みんなで勉強したいと思いこのテーマを選びました。

映画は、A D H D の診断を受けた監督が、発達障害当事者の親戚の男性との交流を通して様々な問題に触れる

ドキュメンタリー。映画に出てくる当事者男性の周りにはしっかりとサポートしてくれる人がいる様子でしたが、映画の中で、そうではなく理解してもらいづらい障害であるが故にサポートが得られず孤立してしまう人が世の中にはたくさんいることも触れられていました。

私はこの映画のタイトルがすごく好きです。「だってしょうがないじゃない」どうしようもない、できないこともある。受け入れていくしかない。社会の中でもっと受け入れていける体制が整っていれば、息苦しく感じる人も少ないんだろうなあと考えさせられた時間でした。

トークショーでは、大阪にある自立生活センターぱあととなあで発達障害当事者スタッフとして活動している梅田奈央子さんをゲストとしてお招きし、発達障害について講演をしていただきました。

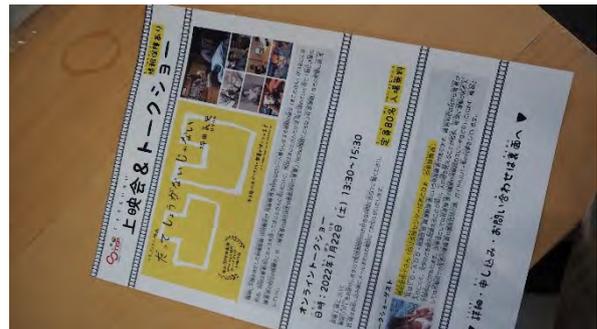


はったつしょうがい こま ひと  
発達障害といっても困りごとは人それぞれで、手先が不器用だったりコミュニケーションが苦手、人の顔や名前を覚えるのは苦手・・・など。どの障害でも共通するとは思いますが、発達障害だからこう！と決めつけるのではなく、本人の得手不得手をまずは尋ねること、サポートしてほしいことを聞くことが大事だなと改めて感じました。

すてっぶ こんかい つづ はったつしょうがい かた しかた かか かわりかた  
STEPえどがわでも今回に続き発達障害の方のサポートの仕方、関わり方

さまざま だんたい つな  
について様々な団体と繋がりがあいながら勉強していけたら良いなと思います。

こんねんど しょうえいかいあんど  
今年度もまた上映会 & トークショーを企画します！詳細はまた改めてご案内しますので、ぜひご参加ください。



## 2. STEPの防災に関する取り組み(記:市川裕美)

ねん がつ にち えぬえいちけーしゅとけん  
2021年5月19日 NHK首都圏ネットワークにて初回放送

ねん たいふう ごう けいけん とし  
2019年の台風19号の経験やその年の12月実施した広域避難訓練(注1)についてとりあげられました。8時間ほどに及ぶ撮影でしたが放映は夕方ニュースの10分枠(それもガッキーと星野源の結婚発表のニュースの後・・・笑)更には後日朝のニュースでも取り上げられ反響が大きく、以下の講演依頼につながりました。

ねん がつ にち あらかわりゅういきじゅうみん  
2021年11月21日「荒川流域住民防災ネットワーク」キックオフセミナーで発表

じちたい わく こ あらかわりゅういき  
自治体の枠を超えて荒川流域の住民で共に防災を考えるネットワークに参加しました(現在も継続)。板橋、北葛飾、江東、埼玉など様々な市民団体や防災関係の学識者、学生など多岐にわたり、参加者と共に継続的な勉強会などを行なっています。

ねん がつ にち えみんぼう えどがわ  
2022年1月27日 EMINBO(江戸川みんなの防災プロジェクト)主催

ぼうさい きき かんり かぎやはじめ  
防災・危機管理のエキスパート鍵屋一先生を招いて「福祉 × 防災」オンラインセミナー開催しました。

ねん がつ にち こうとうせい かんが  
2022年2月23日 江東区政を考える

## かい こうとう く ちいき かんが かい 会(江東5区マイナス地域を 考える会) でも 発表

となり こうとうく おな すいぼつちいき  
隣の江東区も同じ水没地域である  
こうとう く だいぎ ぼすいがい たい ききかん  
江東5区。大規模水害に対する危機感  
おな すてつぷ こういきひなん かん たいへん  
同じでSTEPの広域避難に関して大変  
きょうみ も き  
興味を持って聞いていただきました。

こんご いっしょ  
今後も一緒にいろいろかかわっていけ  
ればと思います。

ちゅう すてつぷ かいほうほりゆむ ねん  
注1:STEPの会報Vol.33 (2020年  
がつかんこう きじ  
1月刊行)に記事があります。もう一  
度ぜひご覧くださいませ！

## え みん ぼう えどがわ ぼうさい しゅさい ふくしかけるぼうさい 「EMINBO(江戸川みんなの防災プロ主催『福祉×防災』オンラインセミナー」 さんか き ひるかわりようこ に参加して(記:蛭川涼子)

かぎやはじめせんせい すてき ひと せんせい こうぎないよう いんしょうぶか  
鍵屋一先生はすごく素敵の人でした。そんな先生の講義内容で印象深かったところ  
しょうかい おも  
をご紹介したいと思います。

### ●ナマハゲ

かぎやせんせい あおもりしゅつしん はなし ふくしぼうさい  
鍵屋先生は青森出身だそうで、ナマハゲの話をしてくれました。ナマハゲは福祉防災  
りそうけい たいねんまつ かていほうもん ねん かくにん かぞく  
の理想形だそうです。ナマハゲは毎年、家庭訪問して1年どうだったか確認して、家族  
ふ こうれいしゃ けんこう ぐあい だいちょう こうしん やくわり にな  
が増えたか、高齢者の健康はどんな具合か、「台帳」を更新する役割を担っていて、さし  
ずめ 民生委員のような役割だったこと。さらに、ナマハゲが出発する神社は、村の避難  
ばしょ さんどう ひなんけいろ せいび  
場所であり、参道をきれいにすることとは避難経路の整備をしていたということ。  
こども こわ ぶんか め  
子供を怖がらせるだけじゃなかった！すごい文化だったと自からウロコ。

### ●正常性バイアス

どうして ひと じぶん だいじょうぶ かんが  
どうして人は「自分だけは大丈夫」と考えてしまうのか。  
ひと じぶん つごう わる むし しこう せいじょうか へんけん せいじょうせい  
人は自分にとって都合の悪いことは無視してしまう思考「正常化の偏見(正常性バイ  
アス)」があるからだという話も心に残りました。  
さいがいじ こうとう そうぞう かぞく あんぜん かんが かぞく けが  
災害時の行動を想像するとき、みんな、家族の安全を 考えたり、家族が怪我したらこ  
うしようと かんが ています。おも じぶん けが かぞく たす じたい  
うしようと 考えていると思いますが、自分が怪我をして家族を助けられない事態もあ  
るということを わす 忘れていませんか？と。ひ～、ほんとそうですね。

## ●利用者置いて逃げられますか？

「人は弱い人を置いて逃げられるものでもないから、本当なら逃げられる人が被害に遭ってしまう」…これは、市川さんが一番恐れていること！市川さんが防災に自覚めたきっかけもまさにこれでしたよね？！（※STEPの会報、第35号2020年9月号を読み返してください）。市川さんは、ヘルパーが利用者を置いて逃げられるはずがない！だからヘルパーが助かるためにも利用者を助けるんだと思いを強くした…と私は認識しています^^;

## ●「地域力向上」は江戸川区も相談支援専門員も目指すところ

鍵屋先生は「自然の外力 × 人口 × 社会の脆弱さ = 被害」という公式を見せられました。

人口が多い地域ほど、要支援者/要配慮者は多いはずなのに、近所づきあいも消防団も消滅している地域が増えている。社会が脆弱(地域力がない)だと自然災害が起きたとき、人口が多ければ多いほど被害者は増える。

2021年夏、相談支援専門員として、STEPの利用者さんの何人かの個別避難計画を作成しました。STEPは広域避難を推し進めていますが、どこに広域避難するかは明確ではなく、1~2階に住む人はどこに避難するか、一応考えました。福祉避難所に避難するといっても、介助者なしで避難したくない(避難所でどれだけ助け合えるか想像がでない)、垂直避難しようにも上層階の住人に知り合いがいなくてまさかの屋外待機になりかねない、など、まさに地域力に自信がない故に「その時」がきたら危機に陥るしかないのかなという事態が垣間見えました^^;

「人を健康で幸福にするのは良い人間関係に尽きる。」…本当にそう思います。鍵屋先生の講義を聞いて、防災を考えるということは、日常から人間関係・近隣関係を築いていくことであり、それは相談支援専門員が目指す「共生社会」「地域力の向上」につながるんだ！って改めて感じました。ぜひ、もう一度アーカイブ公演をお願いしたいです。で多くの利用者・ヘルパー・相談支援専門員に観てほしいです。

### 3) 普及啓発

#### 1. ヘルパー研修会(記:布川 悠)

STEPえどがわのヘルパー研修会は、単に介護スキル向上のためだけではなく、障害当事者の当事者がいる強みを活かして、障害者を取り巻く様々な課題

や自立生活センターが支援する人たちのことを知っていただくためのテーマも盛り込んでいます。

#### <2021年4月～2022年3月までの実施実績>

開催日	テーマ	参加者
5月14日	接遇:自立生活センターでの接遇とは何かを考える	28名
6月25日	災害時の対応について考える～地震・水害～	24名
7月28日	A D H D への理解を深める(ゲスト:利用者 関口 悟さん)	31名
9月27日	地域生活をサポートするため、自立生活センターのヘルパーとしてできることを考える(ゲスト:利用者山本瑛太君のお母様)	17名
11月24日	ヒヤリハットと事故対応について	22名
12月10日	聴覚障害への理解を深める (ゲスト:自立生活センターリングリング 種池麻祐子さん)	23名
1月12日	同じ自立生活センターで働く全国の仲間と繋がろう! (共催:自立生活センター 星空さん)	21名
3月11日	介助者のフリートーク STEPえどがわで働くきっかけや、感じていること等 G W を通じて共有する	22名

2021年度は、合計8回のヘルパー研修会を開催しました。

ヘルパー研修会の目的の1つに、ヘルパー同士やヘルパーと当事者同士の

交流というものがあります。昨年度は利用者さんに協力していただいたり、他のCILの方と関わる機会があったりと、さらに幅広い交流ができたかなと感じています。ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました！！

年度末に、「介助者のフリートーク」というテーマで研修会を行いました。GWでは1つのテーマとして、「ヘルパーを長く続ける秘訣って何かある？」という話をしました。私のグループは経験年数が長い方が多く、結構共通しているワードが飛び交っていました。ち

なみに私はヘルパーなりたての頃に尊敬するヘルパーさんから、「何か失敗したときに謝りすぎないこと」が長く続ける秘訣だと聞き、なんとなくずっと意識してきています。

介助の現場は時に孤独にもなりやすく、悩みを抱えても話す場所がない…というヘルパーさんも沢山いるかなと思います。ヘルパー研修会が、少しでもそういった気持ちが解消される場になるよう、今年度も担当一同がんばります^^是非ご参加ください。

## 2. バリアフリー戦隊ダンサナクセイバー 絵本製作(記:津田浩史)

最初はナクセイバーSHOWの内容を簡単な絵本にして誰でも手に取って見られるフリーペーパーとしてだそうと2020年の夏に企画しました。

絵本の内容を検討しながら絵が描ける隊員が下絵を描いて起こして、そ

こに僕が色付けをして進めていく流れで行い、日々坦々と塗っていました。

そんな作業に専念していると自分では満足いくと感じてしまい、肝心な読み



て、受け手側からするとどう見えるかが、分からないままなってしまう。製作中これに、気付けたのが何より幸いでした！

実際に隊員に意見を聞く

- ① 焦点が定まらないどこを見せたいのかわからない
- ② 攻撃的な色使い(閃光や

火花が血しびきに見える)

③ 威圧的が有り過ぎ見づらかったり

④ 下絵の書き直し…などなど

こうした指摘を修正しながら進めて

いくにはどうすればいいか検討して、色彩担当を設けることにしました。この担当には直接作成に携わってなかった隊員に担ってもらい上記の点の修正を行うことになりました。

これにより今までの塗り付けの仕方を変えて1ページの下絵に全部に塗りをせずキャラクターだけの塗りと、背景だけの塗りと、エフェクトだけの塗りと、同じページの塗りつけの場所を変えて3～4枚に分けて塗りそれぞれを写真加工ソフト「フォトショップ」に取り込んで色彩担当と調整しながら1ページ1ページを仕上げていきました。

これには時間はかかりましたが、絵本作成の過程で絵が描ける得意な人だけが制作に携われるだけでなくいろんな人が幅広く携われるようにできた色彩担当は僕にとっておおきな財産になりました。

この財産は、次の新作を作る時に大きく活躍できるものとなります！その後2021年の夏頃にすべてのページに塗り付けと色彩調整を行いセリフの文字付けを始めることになりました。

この文字も明朝体やゴシック体などいろいろなフォントの使い分けをしていましたがシーンごとによっては健常者で

も見づらくなってしまう明朝体やゴシック体でも弱視の人に見づらいなど、文字の配慮が難しかったです。

ここまで出来上がって来た時に隊員がフリーペーパーではないしっかりした背表紙のついた「本」にする案を出し、印刷会社「ガップリ！の絵本」さんを見つけて、試みにサンプルを見たところ一目惚れするほどのすごい出来栄えだったため、即決で現在の絵本となりました。

構想から製本に至るまで1年半かかりましたが当初のイメージから飛躍的に現実化できたことは何よりの収穫です。現在は江戸川区を通じて図書館や小学校へ配布活動を行っております。

絵本に採用できなかった塗りページ(①②③等)があります  
もし興味のある方は津田までお声かけください(^\_^;)

「ガップリ！の絵本」さんより深いインタビューを受けております。

こちらもご興味のある方は下記のURLからアクセスしてください。

<https://www.gappri.jp/oe/interview/interview-page20.php>



## 4) 広報活動の報告 (記: 工藤登志子)

STEPえどがわでは現在、ホームページやFacebook、Twitter等のSNSに加えて、年1回発行の年次報告書にて活動報告をさせて頂いております。コロナ禍になった2019年以降はイベントのほとんどが中止になってしまい、更新頻度がめっきり減ってしまいました。それまでSTEPと言えば「ワイワイガヤガヤにぎやかな場所」だったので、ひっそりと息をひそめていた期間は「STEPって活動してるの?」と心配になった方もおられるかもしれません。その点をご心配をおかけして申し訳ありませんでした。でも、STEPのみんなは元気にやっております! おかげさまでスタッフ、利用者様共にコロナ感染は抑えられており、通常通り介助派遣を回しております。このままコロナが終息していけば、BBQやお花見等の交流イベントを再開できる日も近そうな気がしています。

また、2021年度から新たな取り組みも始めました。その一つが「バリアフリー絵本」です。STEPえどがわの公式キャラクター、ダンサナクセイバーが日常

STEPえどがわ公式ホームページ:  
<http://www.step-edogawa.com/>



Facebook:  
<https://www.facebook.com/CIL.STEP.Edogawa>



生活の中にあるあらゆるバリアについて、子供にもわかりやすく説明をしています。この絵本は今後江戸川区内の小学校に配布していく予定です。他にも映画上映会、バリアフリー演劇、YouTubeチャンネルの開設等、コロナ禍にも対応した広報活動の準備を進めています。

私たちがこのような活動を行う目的は、ただ単にSTEPえどがわを知ってもらうだけでなく、地域の人々を巻き込みながら楽しいことをすることで、世間一般の障害者のイメージ(暗い、怖い、関わりたくない等)を少しでも明るく変えたい、世の中からあらゆる差別をなくしていきたい、という思いが込められています。そしてあわよくば、「介助の仕事がしてみたい!」、「自分らしく自立生活したい!」と思ってくれる人たちがもっとたくさん増えると良いな。

2022年度はもう少し更新頻度を上げられるよう、色々なことにチャレンジしていきたいと思っておりますので、ぜひフォローしてお待ちください!

Twitter: Twitter内の検索にて「@stepedogawa」と検索

YouTube: <https://www.youtube.com/channel/UCnepu9vwQhZ29Bn77VSiQw/videos>



## 5)STEPえどがわの外部協力(講師派遣やネットワーク作りのための協力)

STEPえどがわのスタッフは外部協力として、講師派遣を始め、各種ネットワークや取り組みに協力し活動を行っています。各種団体や学校、行政などと当事者が積極的にかわりを持つことでSTEPえどがわを知ってもらうとともに、幅広く情報を集め、STEPえどがわの活動に活かしています。

### <2021年4月～2022年3月までの協力実績>

スタッフ名	内容
いまむら 今村 (当事者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JIL(全国自立生活センター協議会)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・常任委員会</li> <li>・国際協力PT</li> <li>・政策委員会</li> <li>・国交省検討会(駅無人化、特急車両のバリアフリー)</li> <li>・国連障害者権利条約・権利委員会脱施設コンサルテーション</li> </ul> </li> <li>●DPI(障害者インターナショナル日本会議)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・常任委員会</li> <li>・政策討論集会実行委員会</li> <li>・地域移行戦略会議</li> <li>・地域生活部会</li> </ul> </li> </ul>
つちやどう 土屋(同)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ICTを活用した歩行者移動支援の普及促進検討委員会 会議(4/1、4/7、9/8、2/24)</li> <li>●第14期バリアフリーリーダー研修 養成沖縄開催 運営会議(4/13、5/11、5/20、6/8、6/22、7/9、8/17、8/31、 9/14、9/28、10/19、11/9、11/16、12/7、3/8、3/22)</li> <li>●前期研修のエコモ財団への報告会(4/20) 研修開催(11/30、12/14、12/17)</li> <li>●JIL JICA NGO等提案型プログラム オンライン研修(4/23、7/30、10/22、1/28)</li> <li>●江戸川みんなの防災プロジェクト(EMINBO) 打合せ(4/27、5/14、5/21、6/18、7/28、1/13、1/24、1/27、2/9)</li> <li>●交通サポートマネージャー(サポマネ):交通事業者向け接遇研修 打合せ(5/5、5/19、6/22、6/26、8/8、10/7、10/28、11/10)</li> </ul>

<p>つちや どう 土屋(同)</p>	<p>こうぎ 講義(6/30、7/1、11/24、11/25)</p> <p>じえーあーるとうかいせつぐくけんしゅう ● J R 東海接遇研修</p> <p>うちあわ こうぎ 打合せ(5/6)講義(11/4)</p> <p>こくさいいりようふくしだいがくこうぎ ● 国際医療福祉大学講義</p> <p>うちあわ こうぎ 打合せ(5/13)講義(6/25)</p> <p>でいーびーあいにほんかいぎ ぶかい ● D P I 日本会議バリアフリー部会</p> <p>かいぎ 会議(5/13、6/10、7/8、8/12、9/9、10/14、11/11、12/9、 1/13、2/10、3/10)</p> <p>こうそくどうろ けんとう ● 高速道路トイレ検討(6/15)</p> <p>とうようだいがくがくせいそつろんけんきゅうきょうりよく ● 東洋大学学生卒論研究協力</p> <p>うちあわ げんちちょうさ 打合せ(8/16)現地調査(9/24)</p> <p>えぬえいちけーぼうさい かん しゅざい ● N H K 防災に関する取材(5/16、5/22、8/25)</p> <p>じゃいかしやうがいしや のうりよくきょうか えんかくけんしゅう ● JICA 障害者リーダー能力強化コース遠隔研修</p> <p>うちあわ 打合せ(8/27、9/9)</p> <p>きょうざいえいぞうげんちさつえい こうぎ 教材映像現地撮影(9/16、9/22)講義(11/1)</p> <p>こくないりょかくせん こがたしやうこうそうち けんとう ● 国内旅客船における小型昇降装置の検討</p> <p>けんとうかい しさくきひょうかじつけん 検討会(9/7、3/17)試作機評価実験(2/15)</p> <p>らいふる ほーむずしゅざい ● LIFULL HOME'S 取材(9/30、12/10)</p> <p>としこうえん ● 都市公園ガイドライン(10/6)</p> <p>にほんけいざいしんぶんしゅざい ● 日本経済新聞取材(10/12)</p> <p>こくりつこうえんびーえふか ししん ● 国立公園BF化指針(10/13)</p> <p>ゆーあーるきこうしゃいんゆーでいーけんしゅう ● U R 機構社員UD研修(10/22)</p> <p>とうきょう しみんかつどう ● 東京ボランティア市民活動センター</p> <p>うちあわ こうぎ 打合せ(11/5、11/15)講義(11/18)</p> <p>とつきゅうしゃりょう けんとう ● 特急車両トイレ検討(12/2)</p> <p>しながわそうだん ● アクアパーク品川相談(3/30)</p>
<p>ひるかわ どう 蛭川(同)</p>	<p>とうきょうとそうだんしえんじゅうじしゃけんしゅうけんとうかいいいん ● 東京都相談支援従事者研修検討会委員</p> <p>ぜんたいかいぎ ぜん かい 全体会議 全4回(5/18、8/13、11/12、3/17)</p> <p>しよにんしゃけんしゅう かいぎ 初任者研修チーム会議(5/24、6/17、6/21、6/28、7/8、7/13、7/19、 8/2、8/13、8/16、9/21、10/18、11/12、12/16、2/14)</p> <p>えどがわくそうだんしえんじぎやうしゃれんらくきょうぎかい えそうれん ● 江戸川区相談支援事業者連絡協議会(江相連)</p> <p>りじかい 理事会(4/18、6/22、7/22、8/5、11/4、1/26)</p> <p>けんしゅうぶかい 研修部会(5/11、6/14、7/6、8/4、)</p>

<p>ひるかわ どう          蛭川(同)</p>	<p>ていれいかい          定例会(4/20、6/15、8/17、10/19、11/11、12/10、2/15)          ●江戸川区移動支援事業者連絡会(移動連)          うんえいいいんかい          運営委員会(5/28、6/10、6/29、7/15、10/13、11/30、12/20、          1/6、3/18)          ていれいかい そうかい          定例会(8/10:総会、11/11、2/22)          ●江戸川区の精神障害にも対応した地域包括ケアシステム・ピアサポート          わーきんぐぐるーぷ          W G (5/27、9/14、9/22、10/1、1/20)          ていうんえいいいんかい けんしゅういけんこうかん          ●TIL運営委員会(6/17、7/20=ピアサポート研修意見交換、8/23、          9/30、10/19、11/29、12/20、1/31、3/17)          ●東京都ピアサポーター研修検討委員TILサポート G (8/24、9/9、          10/31&amp;11/20=意見交換、11/27、12/5、1/21)          ●さんしょうがいフォーラム(11/2=10周年記念パーティ)          ていれいかい          定例会(3/28)          ●令和3年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業「障害ピアサポート          けんしゅう こうし ようせい けんしゅう こうかそくてい          研修における講師の養成のための研修カリキュラムの効果測定および          ガイドブックの開発」          けんとういいんかい          検討委員会(11/7、12/5、2/6、3/12)          きそ せんもん みなお うちあわ          基礎・専門テキストの見直しチーム打合せ(12/19、2/18、3/4)</p>
<p>くどう どう          工藤(同)</p>	<p>とーとーかぶしきがいしゃ けんしゅう ずーむ          4/8 TOTO株式会社ユニバーサルデザイン検証グループZOOMミーティング          きょうどうつうしん しゅざい どうきょうごりん かんが          4/14 共同通信 取材「東京五輪を考える」          どうかいどうしんかんせんえぬ えすくるまいすやう しさつ あかぼねこくど          4/15 東海道新幹線N700S車椅子用フリースペース視察&amp;赤羽国土          こうつうだいじん どうじ いけんこうかん          交通大臣(当時)との意見交換          こくどうつうしやう だい かいとつきゅうしゃりやう いけんこうかんかい          4/28 国土交通省 第2回特急車両バリアフリー意見交換会          えき むじんか ともな あんぜん えんかつ えきりやう かん いけんこうかんかい だい かい          5/14 駅の無人化に伴う安全・円滑な駅利用に関する意見交換会(第4回)          にほん しんこう ちちぶのみや じやう しばつ          5/26 日本スポーツ振興センター 秩父宮ラグビー場バリアフリー視察          あんどいけんこうかん          &amp; 意見交換          こくどうつうしやう だい かいとつきゅうしゃりやう いけんこうかんかい          5/31 国土交通省 第3回特急車両バリアフリー意見交換会          こくりつこうえん か ようぼう ささがわかんきやうふくだいじん めんかい          6/1 国立公園のバリアフリー化の要望について笹川環境副大臣と面会          こくどうつうしやう えぬ えすにじしゃ かん じえーあーどうかい せつげい かか うちあわ          6/1 国土交通省 N700S二次車に関するJ R 東海との設計に関わる打合せ          ていぶがくしゅうかい めざ しょうがいじ しゅうがく          6/5 TIP学習会 目指せ！フルインクルージョン！！障害児の就学に          かん きそ ちしき さんか          関する基礎知識 参加          こうそくどうろ          6/15 高速道路のトイレについてのヒアリング</p>

くどう どう 工藤(同)	6/16 こくごとうつうしょう たいさくか まなべかちょう かいぜん 国土交通省バリアフリー対策課 真鍋課長と「改善していただき
	たいバリアフリーの課題について」面談
	6/21 れいわ ねんどだい かいしやうがいしやさべつかいしやうしえんちいききやうぎかい 令和3年度第1回障害者差別解消支援地域協議会
	6/22 こうえきざいだんほうじんにほんぶどうかん にほんぶどうかんぞうちくかいしやうこうじななしやかいぎ 公益財団法人日本武道館 日本武道館増築改修工事七者会議
	6/29 こうくうきよくこうくう ぶ こうくうじぎやうか 航空局航空ネットワーク部航空事業課
	航空関係の課題について意見交換
	7/2 だい かい じ すえす こうれいしや しょうがいしやはいりよせつけいししん 第1回「JISS0024 高齢者・障害者配慮設計指針
	—住宅設備機器」改正 分科会
	7/4 かぶしきがいしやこわ たい ぼ やしき 株式会社怖がらせ隊 デリバリーお化け屋敷
	「絶叫救急車」先行体験会 取材
	7/5 だい かいいどうなどえんかつかひやうかかいぎかんとうぶんかかい 第3回移動等円滑化評価会議関東分科会
	7/14 かぶ まる いじどうしや ゆーでー けんしやう (株)丸井自動車 UDタクシー研修
	7/20 ひ の じどうしやかぶしきがいしや こがた ぜつと 日野自動車株式会社 小型デュトロ Z
	E Vの車いす改造について意見交換
	7/26 だい かい じ すげんあんさくせいいんかい 第1回アクセシブルサービスJIS原案作成委員会
	7/26 だい かいとつきやうしやりやう いけんこうかんかい 第4回特急車両のバリアフリー意見交換会
	7/26 こくごとうつうしょう とつきやうしやりやう かん いけんこうかんかい 国土交通省 特急車両のバリアフリーに関する意見交換会
	7/29 とうきやうでんてつかぶしきがいしや しやりやう 東急電鉄株式会社 ホームと車両の
	段差・隙間への対策について意見交換
	8/2 じえいあーとうかい とつきやうえいちー けい かん う あ J R 東海 特急 H C 85系に関する打ち合わせについて
	8/18 こくごとうつうしょう えき ひがい かいぜん 国土交通省 「駅アナウンスによるスターカー被害について改善の
	お願い」事業者と意見交換
	8/19 だい かい じ すえす こうれいしや しょうがいしやはいりよせつけいししん 第2回「JISS0024 高齢者・障害者配慮設計指針
	—住宅設備機器」改正分科会
	8/25 だい かい くるまいすしやうしやようちやうしやせつなど かた かん けんとうかい 第1回「車椅子使用者用駐車施設等のあり方に関する検討会」
	8/26 だい かい じえいあーとうかい とつきやうえいちー けい かん う あ 第2回 J R 東海 特急 H C 85系に関する打ち合わせについて
	9/10 こくごとうつうしょう だい かいとつきやうしやりやう かん いけんこうかんかい 国土交通省 第5回特急車両のバリアフリーに関する意見交換会
	9/13 ひ の じどうしやかぶしきがいしや こがた ぜつと いーがい くるま かいぞう いけんこうかん 日野自動車株式会社 小型デュトロ Z E Vの車いす改造について意見交換
	9/15 こくごとうつうしょう とくせい おう べついいけんこうかんかい したいふじやう 国土交通省 特性に応じたテーマ別意見交換会「肢体不自由⑤」
	9/22 れいわ ねんどだい かいこうきやうこうつうきかん きじゆんなど かん けんとうかい 令和3年度第1回公共交通機関のバリアフリー基準等に関する検討会
	9/27 こうえきざいだんほうじんきやうようひんすいしんきこう きやうようひん 公益財団法人共用品推進機構 共用品パックアイデア
	検討ワーキンググループ( W G )検討メンバー就任

くどう どう 工藤(同)	9/29 移動等円滑化評価会議 傍聴
	10/1 第3回「JISS 0024高齢者・障害者配慮設計指針 －住宅設備機器」改正分科会
	10/6 都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン改訂方針に関するヒアリング
	10/21 D P I 日本会議 バリアフリーフォーラム「2021年最新の動き (無人駅等)参加
	10/21 J R 東海「心のバリアフリー研修」講師協力 事前打ち合わせ
	11/4 J R 東海「心のバリアフリー研修」講師協力
	10/23 NPO法人境を越えてフォーラム 2021
	「介助者だって当事者だ。」オンラインイベント 参加
	10/25 栃木カンセキスタジアム バリアフリー視察
	10/28 TIL I L P リーダーズ 参加
	10/29 第4回「JISS 0024高齢者・障害者配慮設計指針 －住宅設備機器」改正分科会
	11/4 国土交通省 無人航空機(ドローン)のライセンス制度創設について意見交換-
	11/5 内閣官房 第5回ユニバーサルデザイン 2020評価会議
	11/16 国土交通省 第7回特急車両のバリアフリーに関する意見交換会
	11/24 福まち学会未来型UD勉強会 第3回研究会 講師協力
	11/25 内閣府新庁舎UDレビュー会議
	11/26 第7回 特急車両におけるバリアフリー対策に関する意見交換会
	12/1 第1回障害者、高齢者等アクセシブルサービス検討分科会
	12/2 国土交通省 車椅子トイレ等の実証実験
	12/14 国土交通省 新幹線N700S系の打合せ
	12/14 第5回「JISS 0024高齢者・障害者配慮設計指針 －住宅設備機器」改正分科会
	12/16 第8回 特急車両におけるバリアフリー対策に関する意見交換会
	12/17 一般社団法人全国福祉法人協会 UDタクシー意見交換会
	12/17 第2回都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン改訂検討委員会
	12/23 令和3年度東京都障害者差別解消支援地域協議会部会(第2回)
	1/7 国土交通省 J R 西日本すき間解消「自動スロープ」について意見交換
	1/26 第2回アクセシブルサービスJIS原案作成委員会

<p>くどう どう                  工藤(同)</p>	<p>1/26 第9回特急車両バリアフリーに関する意見交換会                  1/27 CIL日野 東京都障害者差別解消条例勉強会 講師協力                  1/28 第3回都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン改訂検討委員会                  2/7 国土交通省「劇場等の客席等」のバリアフリー化について意見交換                  2/10 2021年度JIL関東ブロック・TILセミナー 参加                  2/17 環境省 国立公園のユニバーサルデザインについて意見交換                  2/23 CILくにたち 制度学習会 海外での障がい者を取り巻く環境について 講師協力                  2/25 特性に応じたテーマ別意見交換会「肢体不自由及び視覚障害」②                  3/15 斉藤鉄夫国土交通大臣面会                  3/20 DPI日本会議バリアフリー映画祭 参加                  3/24 令和3年度東京都障害者差別解消支援地域協議会部会(第3回) 書面開催                  3/28 令和3年度東京都障害を理由とする差別解消のための調整委員会 書面開催                  3/29 国土交通省 特急やくも新型車両について(J R 西日本)意見交換                  3/30 アクアパーク品川 トイレ介助についてヒアリング</p>
<p>なかそね                  中曽根                  すずね どう                  鈴音(同)</p>	<p>●上野動物園バリアフリー実地調査(卒業研究)協力 9/15                  ●JICAオンデマンド教材撮影協力 9/16                  ●JIL女性プロジェクト(世界女性 W S)会議 月1-2回                  世界女性 W S 企画スタッフ 2/18、2/25、3/4、3/11                  ●JIL聴覚障害プロジェクトチーム会議 月2回                  JIL聴覚障害プロジェクトチーム企画スタッフ 3/3</p>
<p>いちかわ                  市川(コー                  デイナー                  ター)</p>	<p>●JIL新型コロナウイルス対策本部会議(7/20、1/31、3/31、他)                  5/16 NHK(首都圏ネットワーク)取材 (防災)                  6/22 Nらじ取材 (防災)                  7/20 みんなのえどがわ大会議 ワークショップ                  「江戸川区地域防災計画の修正」                  7/27 障害者の地域生活支援と介護派遣の状況(コロナ)インタビュー                  調査(山下幸子:淑徳大学、土屋葉:愛知大学 共同研究)                  11/21 荒川流域住民防災ネットワーク キックオフセミナー                  2/23 江東区政を考える会</p>

## 1. 当事者参画について考える。(記:工藤登志子)

みなさん、「当事者参画」という言葉を  
私は自立生活センターと関わるまで、  
もっと言うと、東京2020 オリンピッ  
ク・パラリンピック競技大会(以下、東京  
オリパラ)が決定するまでは聞いたこと  
がありませんでした。

当事者参画とは何かと言うと、「当  
事者のことを当事者抜きで決めない  
で! (Nothing about us, without  
us!)」ということです。この言葉は有名  
な国連障害者権利条約のスローガンに  
もなっているのでご存じの方も多いか  
と思います。

特に東京オリパラに向けての数年間  
は、様々な競技会場や公共交通機関の  
バリアフリー整備が大きく前進しました。  
国の検討会も多数立ち上がり、あらゆる  
障害種別の当事者団体が出席して  
意見交換を行ってきました。新国立  
競技場は設計段階から障害当事者の  
意見を積極的に取り入れた結果、「世界  
最高水準のバリアフリー整備を実現し  
た競技場」として高く評価されていま  
す。この当事者参画の取り組みは東京  
オリパラのレガシー(遺産)として今後他  
の地域でも引き継いで欲しいという声  
が高まっています。

聞いたことはありますか？

そして私は、当事者参画は国家レベル  
の大々的なイベントだけでなく、ごく  
普通の日常生活の中にも浸透して欲し  
いと思っています。

私たち障害者は、障害があるという  
だけで周囲から劣っている人と見られ  
がちです。介助者と一緒に外を歩くと、  
店員さんや駅の係員さんたちは車い  
すに乗っている私ではなく介助者の方  
に話しかけることが多々あります。私の  
用事で出かけていて、切符代を出してい  
るのも私で、電車に乗るためのスロー  
プが必要なのも私なのに、介助者に向  
かって「どこの駅で降りますか？」とか  
「乗車位置はどの辺が良いですか？」と  
聞くのです。まるで私は判断能力がな  
い透明人間と思われているかのようで、  
毎回悲しい気持ちになります。

これは介助者との外出のみに限った  
話ではありません。バリアフリールーム  
と謳っているホテルの一室が車いすで  
入れないほど狭かったり、グルメサイ  
トでバリアフリーと書いてある飲食店の  
入り口に思いっきり段差があったり、「こ  
れのどこがバリアフリー？」と思っ  
てしまうこともよくあります。なぜこのよう

ギャップが生じるのか。それは、障害のない人が間違っただけで進めてしまった結果だと思えます。せっかくご厚意でやっても、使えないものができてしまつては意味がありません。

もし、ホテルや飲食店が設計段階から障害当事者の話を聞いて何がバリアなのかを理解していれば、なんちゃってバリアフリーは多少なりとも回避できるんじゃないかと思えます。また、みんなが

本人の目を見て話してくれれば、本人の尊厳を傷つけることなく、どんな配慮が必要なのかを適切に伝えあうことができると思えます。

また、介助の場面でも同じことが言えます。良かれと思って先回りするのではなく、細かいことでも本人に聞いて欲しいです。日常生活のどんな場面においても、障害者が取り残されない社会にしていきたいです。

## 2. 国内旅客船における小型昇降装置の検討 (記:土屋 峰和)



皆さんは普段、船ってどのくらいの頻度で利用されますか？

僕が想像するに、頻繁に利用するという方はそう多くはないように思えます。もしかするとしばらく乗ってないかも…という方もいるかもしれません。もしもそうだとしたら、それはなぜでしょう？なぜ船を利用する機会が少ないのでしょうか。

実をいうと、僕自身もさほど多くはありません。日常的に利用する事はなく、

利用する機会の多くは観光です。その観光ですら、利用してみようかな、という発想もあまり無かったように感じます。うーん…なぜでしょうか。

理由は人それぞれだと思えますが、僕は下記の理由が何となくあったのではと思います。

「乗れないかもしれないから(バリアフリー(以下 B F )化されていないのでは)」

「ちょっと不安」

「そもそも乗る必要性が低いから」

僕自身、出かけることは好きなものあって、仕事やプライベートで良く出かけています。でも、そこで船で行ってみよう(に乗ってみよう)という発想があまりありませんでした。意識して利用してみ

ようと思<sup>おも</sup>ったき<sup>き</sup>っかけは、観<sup>かん</sup>光<sup>こう</sup>で広<sup>ひろ</sup>島<sup>しま</sup>へ  
行<sup>い</sup>った時<sup>とき</sup>。お約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>の原<sup>げん</sup>爆<sup>ぼく</sup>ドーム<sup>どーム</sup>を見<sup>み</sup>た後<sup>あと</sup>、  
これまたお約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>の宮<sup>みや</sup>島<sup>しま</sup>巖<sup>いづく</sup>島<sup>しま</sup>神<sup>じん</sup>社<sup>しゃ</sup>へ行<sup>い</sup>こ  
うとル<sup>る</sup>ートを調<sup>しら</sup>べていたとこ<sup>ところ</sup>ろ、フェ<sup>フェ</sup>リー  
(ひ<sup>ひ</sup>ろし<sup>しま</sup>世<sup>せ</sup>か<sup>い</sup>い<sup>さん</sup>こ<sup>う</sup>ろ)と<sup>と</sup>いうル<sup>る</sup>ートが  
あ<sup>あ</sup>るではあ<sup>あ</sup>りませ<sup>せ</sup>んか。電<sup>でん</sup>車<sup>しゃ</sup>で<sup>い</sup>くよ<sup>よ</sup>り  
は面<sup>おも</sup>しろ<sup>い</sup>いかも、と<sup>と</sup>いうこ<sup>こ</sup>とで<sup>い</sup>って<sup>い</sup>た  
の<sup>の</sup>です。

た<sup>た</sup>だ、こ<sup>こ</sup>の原<sup>げん</sup>爆<sup>ぼく</sup>ドーム<sup>どーム</sup>近<sup>ちか</sup>く<sup>の</sup>の乗<sup>の</sup>り場<sup>ば</sup>  
さん<sup>さん</sup>ば<sup>ば</sup>して<sup>ま</sup>え<sup>え</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>階<sup>かい</sup>段<sup>だん</sup>(8<sup>だん</sup>)が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>り、B<sup>B</sup> F<sup>F</sup>  
ル<sup>る</sup>ートが<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>りませ<sup>せ</sup>ん。僕<sup>ぼく</sup>は<sup>は</sup>通<sup>つう</sup>行<sup>こう</sup>人<sup>にん</sup>など<sup>ど</sup>に  
お<sup>お</sup>願<sup>ねが</sup>い<sup>い</sup>して<sup>し</sup>て<sup>て</sup>階<sup>かい</sup>段<sup>だん</sup>を<sup>を</sup>降<sup>お</sup>り<sup>ち</sup>や<sup>い</sup>ま<sup>し</sup>た<sup>が</sup>、  
こ<sup>こ</sup>は<sup>は</sup>自<sup>じ</sup>己<sup>こ</sup>責<sup>せき</sup>任<sup>にん</sup>で<sup>で</sup>お<sup>お</sup>願<sup>ねが</sup>い<sup>い</sup>し<sup>ま</sup>す。

し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>し、そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>以<sup>い</sup>外<sup>がい</sup>の<sup>の</sup>船<sup>ふね</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>は<sup>は</sup>フ<sup>フ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ッ<sup>ト</sup>、  
船<sup>ふね</sup>も<sup>も</sup>客<sup>きゃく</sup>席<sup>せき</sup>へ<sup>お</sup>降<sup>お</sup>り<sup>る</sup>リ<sup>リ</sup>フ<sup>フ</sup>ター<sup>ター</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>り、  
乗<sup>じょう</sup>船<sup>せん</sup>、船<sup>せん</sup>内<sup>ない</sup>自<sup>じ</sup>体<sup>たい</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>ませ<sup>せ</sup>ん<sup>で</sup>し<sup>た</sup>。  
船<sup>ふね</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>乗<sup>の</sup>れる<sup>の</sup>に<sup>に</sup>、そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>船<sup>ふね</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>行<sup>い</sup>け<sup>け</sup>  
な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>良<sup>よ</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>る、他<sup>ほか</sup>で<sup>で</sup>も<sup>も</sup>見<sup>み</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>  
パ<sup>か</sup>ワ<sup>わ</sup>ズ<sup>ず</sup>です。川<sup>かわ</sup>沿<sup>ぞ</sup>いで<sup>で</sup>ス<sup>す</sup>ペ<sup>ぺ</sup>ース<sup>す</sup>は<sup>は</sup>そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>な<sup>な</sup>  
り<sup>り</sup>に<sup>に</sup>広<sup>ひろ</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>で、何<sup>なん</sup>と<sup>と</sup>か<sup>か</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>か<sup>か</sup>な<sup>な</sup>あ<sup>あ</sup>と  
切<sup>せつ</sup>に<sup>に</sup>願<sup>ねが</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す。ち<sup>ち</sup>な<sup>な</sup>み<sup>み</sup>に<sup>に</sup>宮<sup>みや</sup>島<sup>しま</sup>側<sup>がわ</sup>は<sup>は</sup>オ<sup>オ</sup>ール<sup>る</sup>  
フ<sup>フ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ッ<sup>ト</sup>で<sup>で</sup>問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>利<sup>り</sup>用<sup>りよう</sup>で<sup>で</sup>き<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>  
(宮<sup>みや</sup>島<sup>しま</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>乗<sup>の</sup>る<sup>る</sup>場<sup>ば</sup>あ<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>要<sup>よう</sup>注<sup>ちゅう</sup>意<sup>い</sup>です)。

普<sup>ふ</sup>段<sup>だん</sup>見<sup>み</sup>る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>景<sup>けし</sup>色<sup>き</sup>を<sup>を</sup>見<sup>み</sup>な<sup>な</sup>が<sup>が</sup>ら  
行<sup>い</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>も、移<sup>い</sup>動<sup>どう</sup>自<sup>じ</sup>体<sup>たい</sup>も<sup>も</sup>楽<sup>たの</sup>し<sup>し</sup>め<sup>め</sup>る<sup>る</sup>し<sup>し</sup>良<sup>い</sup>い<sup>い</sup>か<sup>か</sup>も<sup>も</sup>  
と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>った<sup>た</sup>の<sup>の</sup>を<sup>を</sup>覚<sup>おぼ</sup>えて<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す。こ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>  
は<sup>は</sup>船<sup>ふね</sup>に<sup>に</sup>対<sup>たい</sup>し、楽<sup>たの</sup>し<sup>し</sup>そ<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>イ<sup>い</sup>メ<sup>め</sup>ー<sup>え</sup>ジ<sup>じ</sup>が<sup>が</sup>  
薄<sup>うす</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>も<sup>も</sup>し<sup>し</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>せ<sup>せ</sup>ん。

思<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>起<sup>お</sup>こ<sup>こ</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>み<sup>み</sup>ると、こ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>に<sup>に</sup>何<sup>なん</sup>度<sup>ど</sup>



か<sup>か</sup>船<sup>ふね</sup>は<sup>は</sup>利<sup>り</sup>用<sup>りよう</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す。し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>中<sup>なか</sup>で<sup>で</sup>  
残<sup>ざん</sup>念<sup>ねん</sup>に<sup>に</sup>感<sup>かん</sup>じ<sup>じ</sup>た<sup>た</sup>事<sup>こと</sup>の<sup>の</sup>一<sup>ひと</sup>つ<sup>つ</sup>に<sup>に</sup>、展<sup>てん</sup>望<sup>ぼう</sup>デ<sup>で</sup>ッキ<sup>き</sup>等<sup>など</sup>  
の<sup>の</sup>上<sup>じょう</sup>下<sup>げ</sup>移<sup>い</sup>動<sup>どう</sup>が<sup>が</sup>で<sup>で</sup>き<sup>き</sup>な<sup>な</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>が<sup>が</sup>  
あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>す。乗<sup>の</sup>れる<sup>る</sup>か<sup>か</sup>ど<sup>ど</sup>う<sup>う</sup>か<sup>か</sup>は<sup>は</sup>も<sup>も</sup>ち<sup>ち</sup>ろ<sup>ろ</sup>ん<sup>ん</sup>  
大<sup>だい</sup>事<sup>じ</sup>です<sup>す</sup>が、そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>先<sup>さき</sup>の<sup>の</sup>利<sup>り</sup>用<sup>りよう</sup>感<sup>かん</sup>、快<sup>かい</sup>適<sup>てき</sup>性<sup>せい</sup>や<sup>や</sup>  
た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>楽<sup>たの</sup>し<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>等<sup>など</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>重<sup>じゅう</sup>要<sup>よう</sup>と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す。せ<sup>せ</sup>っ<sup>っ</sup>  
か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>乗<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>だ<sup>だ</sup>か<sup>か</sup>ら、展<sup>てん</sup>望<sup>ぼう</sup>デ<sup>で</sup>ッキ<sup>き</sup>で<sup>で</sup>景<sup>けし</sup>色<sup>き</sup>  
を<sup>を</sup>楽<sup>たの</sup>し<sup>し</sup>み<sup>み</sup>た<sup>た</sup>い<sup>い</sup>。で<sup>で</sup>も<sup>も</sup>階<sup>かい</sup>段<sup>だん</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>で<sup>で</sup>行<sup>い</sup>け<sup>け</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>。  
仕<sup>しか</sup>た<sup>た</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>せ<sup>せ</sup>め<sup>め</sup>て<sup>て</sup>同<sup>どう</sup>行<sup>こう</sup>者<sup>しゃ</sup>に<sup>に</sup>展<sup>てん</sup>望<sup>ぼう</sup>デ<sup>で</sup>ッキ<sup>き</sup>  
へ<sup>へ</sup>行<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>、写<sup>しゃ</sup>真<sup>しん</sup>を<sup>を</sup>撮<sup>と</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>き<sup>き</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>  
ら<sup>ら</sup>う(こ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>船<sup>ふね</sup>に<sup>に</sup>限<sup>かぎ</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>です<sup>す</sup>が、  
み<sup>み</sup>は<sup>は</sup>見<sup>み</sup>晴<sup>てん</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>い<sup>い</sup>展<sup>てん</sup>望<sup>ぼう</sup>台<sup>だい</sup>等<sup>など</sup>)。こ<sup>こ</sup>ん<sup>ん</sup>な<sup>な</sup>  
こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>が<sup>が</sup>こ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>に<sup>に</sup>も<sup>も</sup>何<sup>なん</sup>度<sup>ど</sup>か<sup>か</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。

船<sup>せん</sup>内<sup>ない</sup>で<sup>で</sup>の<sup>の</sup>上<sup>じょう</sup>下<sup>げ</sup>移<sup>い</sup>動<sup>どう</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>多<sup>おほ</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>課<sup>か</sup>題<sup>だい</sup>が<sup>が</sup>  
あ<sup>あ</sup>り、他<sup>ほか</sup>の<sup>の</sup>交<sup>こう</sup>通<sup>つう</sup>機<sup>き</sup>関<sup>かん</sup>に<sup>に</sup>比<sup>くら</sup>べ<sup>べ</sup> B<sup>B</sup> F<sup>F</sup> 化<sup>か</sup>が<sup>が</sup>  
こ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>か<sup>か</sup>な<sup>な</sup>か<sup>か</sup>進<sup>すす</sup>ま<sup>ま</sup>な<sup>な</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>現<sup>げん</sup>状<sup>じょう</sup>が<sup>が</sup>  
あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>現<sup>げん</sup>状<sup>じょう</sup>を<sup>を</sup>改<sup>かい</sup>善<sup>ぜん</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>べ<sup>べ</sup>く、  
が<sup>が</sup>く<sup>く</sup>し<sup>し</sup>き<sup>き</sup>しゃ<sup>しゃ</sup> 専<sup>せん</sup>門<sup>もん</sup>家<sup>か</sup>、技<sup>ぎ</sup>術<sup>じゆつ</sup>者<sup>しゃ</sup>、国<sup>こく</sup>交<sup>こう</sup>省<sup>しょう</sup>等<sup>など</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>  
な<sup>な</sup>る<sup>る</sup>今<sup>こん</sup>回<sup>かい</sup>の<sup>の</sup>ワ<sup>わ</sup>ー<sup>きんぐ</sup>グ<sup>グ</sup>ル<sup>る</sup>ー<sup>ぷ</sup>  
(W G)が<sup>が</sup>開<sup>ひら</sup>か<sup>か</sup>れ<sup>れ</sup>、そ<sup>そ</sup>こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>メン<sup>ま</sup>ン<sup>ん</sup>バ<sup>ば</sup>ー

として土屋が唯一の障害当事者として加わることになったのです。

当 W G の事務局である交通エコロジー・モビリティ財団(エコモ財団)さんの調査によりますと、遊覧船等を含む不定期旅客船の B F で最も求められるのは、エレベーター(E V)等の上下移動を行う設備の整備だったそうです。確かに僕がこれまでに乗った船で、問題なく上下移動ができた船は、とても少なかったように思います。時には業務用の E V を使わせてもらったり、時には車椅子ごと(手動車椅子当時)人力で抱えていただいたこともありました。また時には、客室へは行けないため自動車と同じ場所で過ごしたこともあります。

これまでの主な上下移動としては、通常の E V のほか、椅子式の階段昇降機等がありました。しかし、E V は船の構造、設置スペース、コスト等の問題により、設置されている船はとても限られていました。椅子式は乗り移ることのできない車椅子ユーザーは利用できません。こういった課題を解消していくため、今回の



W G では新たに小型昇降装置の開発・検討をし、これまで設置が難しかった遊覧船等も含む小型船への普及も、目指していくというものです。

小型昇降装置の開発にあたり、僕が当事者としてお話しした中でも最もアピールしたかったのは、耐荷重でした。近年では海外製の電動車椅子ユーザーも増え、しかも多機能化しています。そういった電動車椅子は、椅子だけで180kg以上になるものもあるそうです。この椅子に人が乗り、荷物を背負う場合もあるので、総重量で考えるとそれなりの重さになってしまいます。

これまでも耐荷重の問題はあちこちで出ている、結局のところ300kgは必要となっている経緯があります。今回の場合は陸上のそれとは違い、様々な制約がある中でも基本300kgとできたことは、とても大きな意味があると感じています。これは重さでいえば、使える人・使えない人が出るのではなく、100% (私の知る限りではありますが)の車椅子ユーザーが利用可能ということに

なります。

省スペース、低コスト後付け可能の  
昇降機ができたことで、これまで設置が  
難しかった船舶にも可能性が広がった  
と思います。近い将来、この昇降装置が

省スペース昇降装置イメージ図



※STEPえどがわ作成によるイメージであり、  
エコモ財団の事業で作成された実機イメージ  
とは異なります

設置され、これまで行けなかった  
展望デッキへ行き、皆と一緒に景色を  
楽しめるようになるかと妄想すると、ワ  
クワクが止まりません。しかもそれは  
妄想で終わるのではなく、現実へ大きく  
近づいたと感じています。

日本は島国です。綺麗な島は沢山あり  
ます。また陸路だけではなく、海路とい  
う選択肢も意外とあるようにも思いま  
す。海路はまだまだ多少の冒険度要素  
が入るかも知れません。でも私たちが  
利用することで、よりBF化が進むき  
っかけになると思います。近年では乗れ  
る船も増えているようにも感じています。  
皆さんもこれからの移動の選択肢に、  
船を入れてみてはいかがでしょうか。

### 3. 東京都相談支援従事者研修検討会 (記: 蛭川涼子)

私は、2020年から東京都相談支援  
従事者研修検討会に委員として関わら  
せてもらっています。ここでいう「研修」  
は、相談支援専門員の資格を取ったり、  
資格を継続させたりするための法定  
研修です。

#### ◇相談支援専門員に伝えたい当事者

主体のサービス利用  
STEPの介助派遣を利用している皆

さんは、自身でセルフプランを区役所に  
提出したり、相談支援専門員にサービ  
ス等利用計画を作成してもらったりして  
障害福祉サービスを利用していると思  
います。

自立生活センターは、自分の生活は  
自分でマネジメントするというIL(自立  
生活)の理念があります。なので、サービ  
スの利用も含め、自分で必要なサービス  
を決めて事業者も調整するセルフプラ

ンを推奨しています。ですが、自分に必要なサービスを定めることはできても、サービスの調整までは難しい人もいます。その調整を担う役割が相談支援専門員、というわけです。つまり、この人たちを当事者の味方についてくれるかどうかで、サービスの利用の仕方も変わってしまいます。

東京都相談支援従事者研修検討会は、この相談支援専門員を育成するための研修を考え、障害者の相談支援の目的も確認していく場なので、障害当事者が参画していくことは大事なことでした。そのため、都内の各自立生活センターが協力して交代で当事者委員を送り続けていました。私が委員になったとき、検討会の中で当たり前のよう当事者主体の在り方を話し合う姿がありました。委員を担ってきた先輩たちが「当事者主体」というILの理念を伝えてきた成果だと思えます。

私はというと、右も左もよくわからないままに参加することになり、正直、内容が難しすぎて、意見らしい意見など出るものでもなく…ということが続いていましたが、2021年度はひとつだけ当事者参画の成果がありました。

#### ◇「ことばの持つ力」

相談支援においては、ニーズの把握（どんなサービスがあれば、希望する生活を実現できるかを考えること）が重要と言われているのですが、研修ではそれを理解するために、ある専門用語（訳語）が使用されていました。それは医療モデルや専門家主導の時代を彷彿させる訳語で、その訳語に少なくない障害当事者たちが違和感を持っていることがわかりました。その結果、当事者委員たちは、適切な訳語に直す提案を当事者委員全員の意見として前年（2020年）度に放り込んでいました。

ですが2020年はコロナ禍が始まった年。対面ではなくオンラインでの開催方法の準備を優先せざるをえず、先送りになりました。2021年は逃がさないぞと年度初めから持ち出したところ、「専門用語はある程度必要だ。学術論文で世に出回っている用語は我々がどうにかできるものではない」という意見があり、それに同調するような流れがあって私はスイッチが入ったように感じます。

また、産休前だったなっちゃんをつかまえて（←このくだり、1年前の年次報告記事と全く同じ^^;）「この論文は何を言っているの？本当にこの訳語が合っているの？」と泣きつきました。すごく

悔しかったんだと思います。「その訳語でこっちは傷ついてるんですけど?? 学者先生が決めたことだからスルーな訳??」とやっぱり怒りの感情からパワーを出す蛭川…。

なっちゃんの見解をヒントに、文章をまとめて、他の当事者委員にも意見ももらって修正して、当事者委員全員の意見として検討会に提出すると、検討会は真摯に受け止めてくれました。言葉の使い方は繊細であるべきで、軽視してはいけないということや、書類を作成する上で「ことばの持つ力」を意識することは大事なことなんだという

ふうに、当事者委員の意見は相談支援専門員に必要なスキルの一つだとつなげてくれて、コラムとしてテキストに載ることになりました。

その後は、コロナ禍の影響で、オンライン研修に切り替えるための修正に時間を費やし続けたので、目の弱い私にはしんどすぎる日々でしたが、「しんどいしんどい」言いつづけたこともあって、助けてくれる人がたくさんいることにも気づけました。そこから何が始まったのかは…来年の年次報告で！（笑）…2021年度は相談支援に明け暮れた蛭川でした。

## 6)「テレワーク環境整備」(記:中曾根知明)

コロナ前はテレワーク?聞いたことはあっても実際に行くとは全く考えてはいませんでした。緊急事態以降は基本事務作業を自宅での業務としましたが、データが事務所のサーバー内にあるので、USBにデータを移し自宅で作業後に事務所のサーバーに移すという非効率な状況でした。そこでスタッフのひとりが見つけてくれたのが、「シン・テレワークシステム」というものでした。これはN T T東日本と独立行政法人情報処理推進機構が自宅から会社のパ

ソコンを操作することができるシステムを緊急構築し無償で提供してくれるシステムです。これにより自宅から事務所のパソコンにアクセスができるので、事務所にいる感覚で事務作業がスムーズになりました。もちろん各パソコンの設定やIDやパスワードなどの管理は大変なところはありますが、事務所での作業を最小限に出来ることによる感染対策の一環としてはかなり有効な手段のひとつではないかと思っています。

しょうがいふくし かいごほけん  
 ③障害福祉・介護保険

りようしゃすう どうろくすう はけんじかんすう  
 1)利用者数・ヘルパー登録数・派遣時間数

かいじょほけん  
 <介助派遣>

りようしゃすう 利用者数	にん (うち 3人 かいごほけん サービス へいよう) ※新規利用者 5名	
ヘルパー数	だんせい にん (うち しゃいん 10人) ・ じよせい にん (うち しゃいん 9人) ※性別は自身の申告による性別です。	
はけんじかんすう 派遣時間数	じゅうどうほうもんかいご 重度訪問介護	55,665.5時間
	きやたくかいご しんたい かじ 居宅介護(身体・家事)	2,613.0時間
	いどうしえん 移動支援	1,279.0時間
	かいごほけん 介護保険	2,044.5時間
	じひ ちゅう 自費(注1)	192.0時間
	ごうけい 合計	61,794.0時間

(注1) 十分な支給決定がされず不足する介助時間、または障害福祉サービスで認められていないけれども障害者の生活にとって必要不可欠とされる事柄について介助派遣を行ったもの。

けいかくそうだんしえん  
 <計画相談支援>

りようしゃすう 利用者数	にん 4人
-----------------	----------

りようしゃ しょうかい  
 2)利用者さん紹介

もり ゆづき  
 その1.「森 優月さん」(記:中曾根鈴音)

じい しえん  
 ろう児の支援

もり ゆづき はじ あ  
 森優月ちゃんと初めて会ったのが 3  
 ねんまえ はる さい とき ゆづき  
 年前の春、4歳の時でした。優月ちゃん  
 わたし おな ちょうかくしょうがい しゅわ  
 は私と同じく聴覚障害があり、手話で

コミュニケーション  
 を取ります。  
 であ  
 出会ったばかり

ときは、手話は理解しているものの意思



ひょうじ 表示をしてくれることは少なく、うまく  
コミュニケーションがとれず しょうさくご  
しながらも かわか かわか たんきゅう  
関わり方を 探求してきました。  
しえん はい かわか しゅう ふつ か わたしふく  
支援の入り方は、週に2日ほど 私含  
め すてっぷ しゅわ ができるスタッフが 朝  
ゆう がっこう から したく までの そうげい みじか  
夕の学校から自宅までの送迎という 短  
じかん かわか ゆづき  
い時間の関わりではありますが、優月  
ちゃんの小さな手が紡ぐ手話に 私たち  
スタッフは 魅力 されながら、なんとか 優月  
ちゃんの 気持ち を 汲み取りたいと たくさ  
んの コミュニケーション を 重ねています。  
げんざい ゆづき しょうがっこう ねんせい  
現在、優月ちゃんは小学校2年生になり  
おお 大きな ランドセル を 背負って 学校 に 通  
ています。 私たちの 関わりも 4年目  
になり、 関わり 始めた とき くら 信頼 関係  
も 深まり、 コミュニケーション も スムーズ

になってきたと感じています。

ちょうかくしょうがい りようしゃ  
聴覚障害のある利用者さんはこれま  
でも なかなか いなかった ので、 また イベ  
ント など が できる よう に なった ら みな  
さん にも 優月ちゃん を 紹介 したい です ♪



## その2.「大西 修平さん」(記:ご本人)

すてっぷ 利用者の 大西 修平  
です。 しょうがい がたきんぴ  
障害はデュシェンヌ型筋ジストロ  
フィーです。STEPえどがわの利用者  
としては、約二十年ほどお世話になって  
おります。

また、最近ではSTEPえどがわが力  
を入れている地域の防災活動に少し  
さんか 参加させていただいております。

今までたくさんのヘルパーさんに  
かいじょ 介助してもらい生きてきましたが、いつ

もおも 思うことは「ヘルパー」というお仕事と  
はプロフェッショナルでなければなら  
ないと思います。

ほんらいにんげん むいしき おこな どうさ ぐち  
本来人間が無意識に行う動作を口で  
せつめい つた え、それを りかい どうさ  
説明し、伝え、それを理解し、その動作を  
サポートすることはとても 難しいです。  
わたし じしん おこな どうさ つた  
私も自身で行う動作を伝えることが  
へた むずか 難しさに 拍車をかけるととも  
に、いつも 彼らに 対し、うまく 伝えられ  
ない 申し訳なさと その上 で 理解 しよう と し

てくださる姿勢に感謝します。

また、単純な仕事のよう  
で一つ一つの動きや行動を  
理解する瞬間に私の表情  
や状態を確認し、気を使い、  
私にとって何がベストなサ



ポートかを考え、サポートするというの  
は、本当にプロフェッショナルな仕事だ  
とと思うのです。だからこそより賃金を含  
めた彼らの仕事に対する社会的地位の  
向上があればといつも願っています。

ところで、現在私は自身の経験から  
留学をサポートする活動を数年前から  
「インウェブアウト留学センター  
(<https://icie.jp/>)」という名で行っ  
ております。コロナ禍ではありますが、  
おかげさまで去年、今年と数十人の  
学生をアメリカ合衆国はハワイ州へ  
語学学校のみならず大学にも送り出し  
ております。

私と同じように夢に向かっていく  
学生さんたちのお手伝いができること

はとても楽しく、このような活動が出来る  
ことに誇りと幸せを感じております。

同時に個人の活動([https://  
inwebout.com/](https://inwebout.com/))として、私の母校  
である University of Hawai'i-  
Kapi'olani Community College  
や高崎商科大学、在日米国大使館  
(Education USA)などで自身につ  
いての講演させていただけるなど、  
充実した日々を過ごしております。

これからも進行していく障害と共に  
「今」を大切にしながら生きていきたい  
と思います。引き続きよろしくお願ひ申  
し上げます



### 3)ヘルパーさんたちの遊び場

STEPえどがわで働くヘルパーさんたちの紹介コーナーです！！素敵なヘルパーさ  
んたちの素顔をご紹介します

## 1.「北沢 野土花さん」

はじめまして。ヘルパーの北沢と申します。

約3年前、介助未経験 & 資格なしだった私は「自立生活のほん」と知りたくて、ステップに電話をかけていました。

きっかけは、娘の将来について考えたことでした。10歳になる娘は「脳性麻痺」という障害があります。いわゆる「重度障害児」のため、一般的には、生活介護や施設入所が進路とされています。

ホントにそれしかないの？とギモンだった頃、NHKのバリバラで「重度訪問介護」を知りました。こんなくらし方もあるんだ！と衝撃を受け、娘がこの道を選ぶかも？と、勉強もかねて、働かせていただくことになりました。

テレビでは、「キラキラ & フリーダム」に見えた自立生活。でも実際は、利用者さんのさまざまな心配りの上に成り立っていることを知りました。ときに、ヘルパー側にたってくださることで、仕事のしやすさを感じています。いつも本当にありがとうございます。

まだまだ未熟者ですが、利用者さんより「ホンネ」に近い気持ちをサポートできるよう、ことばの奥を探る支援を心がけていきたいです。

また、ヘルパーを始めたことで、親と



しての考え方も変化しました。

正直、娘を小さく産んでしまったことに負い目があり、なんでも叶えてやるのが償いのような気がしていました。いわゆる過保護です。

それが、当事者の方と話す中で「どんな障害があっても、子どもには子どもの人生があり、親には親の人生がある」ということを学び、まわりに助けていただいて、肩の力をぬこう、と思えるようになりました。今年はずっと我慢してきたプロレス観戦に行ってみようと思っています(笑)

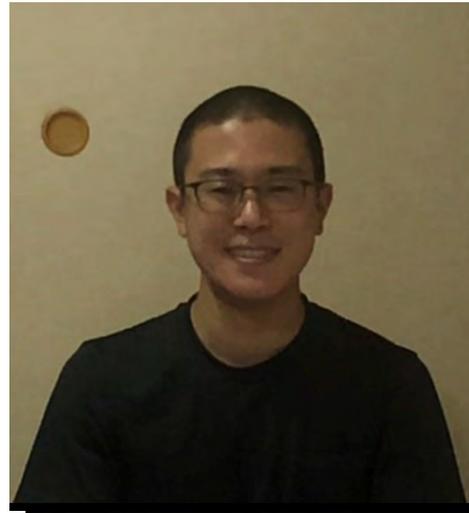
そして、ステップは、事務所のスタッフさんや先輩ヘルパーさんがとても優しいので、未経験でも丁寧に教えてくださいます。介助の仕事、楽しいですよ～！

今後も利用者さんの自己選択、自己決定をしげんにサポートできるよう、微力ではありますが頑張っていきたいです。

## 2.「原嶋 健太郎さん」

こんにちは。ヘルパーとして働かせて  
いただいています、原嶋 健太郎です。  
今数えてみてびっくりしましたが、  
STEPで働き始めて4年目になりまし  
た！年々、1年が過ぎるのを早く感じる  
な～と思う今日この頃です。これから、  
STEPで働き始めたきっかけと、働い  
てきた中での自分の変化、ということ  
を書いていきたいと思ひます。よろしくお  
願ひします。

僕がSTEPで働き始めたきっかけは、  
大学1年生の時の「当事者の自立生活」  
をテーマとした講義に曾田さんと市川さ  
んがいらして、講義後にヘルパー募集を  
しているという話をしてくれたことでし  
た。その時にやってみようと思ひたポイ  
ントとして3つありました。1つ目は大学  
に入って座学の勉強をしているだけで  
得られることは少ないと感じていて、  
実際に当事者の方がどのように生活を  
されているのかを学べるのではないかと  
思ひたこと。2つ目が当事者の方が  
運営している「自立生活センター」ってど  
ういう所なのだろう？と疑問を持った  
こと。3つ目が曾田さん、市川さんが  
魅力的で、この人たちが働いている所  
なら働いてみたいなと思ひたことです。



のちに今村さんには「なっちゃん(曾田  
さん)にたぶらかされて来た」と言われ  
てしまうのですが(笑)。そんな感じで始  
めたヘルパーの仕事ですが、大変だと思  
う時もありますが、今日まで楽しくやら  
せていただひています。

僕がヘルパーの仕事をしてきて気づい  
たことは、僕たちが見ている世界は自分  
達のこれまでの経験によって見え方が  
変わるということです。例えば、車椅子  
の利用者の方と出かけた時に、行こうと  
思ひていたお店が車椅子では入店する  
ことが難しくて違う店を探さなければ  
いけなくなったということを経験したこ  
とがあります。その経験をしてから、プ  
ライベートで遊びに行った時に、この店  
は車椅子で入りやすいか、入りにくいか  
を考へるようになってたり、これまでに  
自分が当たり前に行っていたお店も「あ

あ、この店は・・・」というように今までとは違って見えるようになりました。

また、このお店は入るの難しそうだなと思った時に、とりあえずお店の人に聞いてみるとお店の人が協力してくれて何とかなったりすることもあります。一見すると難しく見えることも、工夫次第でどうにかなることは沢山あり、どうすればできるようになるかを考えることが大切なのだと思うようになりました。難しくそうに見える事を利用者の方とどうにかする、なんだかんだどうにか

なる、という経験がヘルパーの楽しさではないかと思っています。難しいことが沢山・・・はキツイですが(汗)、すぐに諦めないことが大切ですよ！

最後に、未熟な自分が4年間働いてこられたのは、利用者の方、STEPの職員の方、先輩ヘルパーの方々のおかげです。本当にありがとうございます。これからもご迷惑をおかけすることはあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

ようせいけんしゅう

## ④養成研修

じゅうどほうもんかいごじゅうぎょうしゃようせいけんしゅうおよ かくたんきゅういんとうだいさんごうけんしゅう  
重度訪問介護従業者養成研修及び喀痰吸引等第三号研修

きなかそねともあき  
(記:中曾根知明)

STEPえどがわでは、基本的に毎月研修の開催を予定しており、重度訪問介護従業者養成研修は、ヘルパーとして働くための資格であり、喀痰吸引等第三号研修は、痰吸引や経管栄養(胃ろうなど)を必要とする方へ、サービスを提供するために必要な資格です。

2021度も前年度に続きコロナ禍ということもあり、感染対策を十分に行ったうえで資格講習を開催致しました。

コロナ前と比べ受講者はまだ少ないですが、ワクチン接種が進んだこともあり、前年度よりも受講生が増えてきたことは明るい兆しが見えてきた感じがします。まだコロナの終息がいつになるか誰も分かりませんが、今まで通り感染対策を講じたうえで少しでも有資格者が増え自立生活を支える担い手が増えることを願っています。

じゅうどほうもんかい ごじゅうぎょうしゃようせいけんしゅう  
**重度訪問介護従業者養成研修** <2021年4月～2022年3月実績>

じっしつかいすう 実施回数	かい 4回	4/23-24、5/22-23、7/17-18、12/11-12
じゅこうせい 受講生	のべ18人	

かくたんきゅういんなどだいさんごうけんしゅう  
**喀痰吸引等第三号研修** <2021年4月～2022年3月実績>

きほんけんしゅう 基本研修の じっしつかいすう 実施回数	かい 10回	4/10、5/9、5/13、5/15、6/12、7/31、10/11、 11/6、1/23、3/12
じゅこうせい 受講生	のべ50人	

## 03 その他

### 1) 新入社員紹介！！！！

たかはしり お ことし さい  
 高橋梨緒です今年18歳になります！  
 はい  
 入ったきっかけはお母さんからの紹介  
 と親戚に障害の持ってる人がいて少し  
 きょうみ  
 興味があってやっ  
 てみようかなーと  
 おも  
 思ったのがきっか  
 けでした。  
 しごと らく こと  
 仕事は楽な事ば



かりじゃないけど利用者さんとのくだら  
 ない話でも恋バナでも、話していると明  
 るくなる事ばっかで自分も楽しくなるこ  
 とばかりです。まだ  
 まだわからないこと  
 ばかりですけどこれ  
 からもよろしくお願  
 いしますー！！

## 2)2021会計報告・2021活動報告・2022活動方針

書式第13号(法第28条関係)

2021年度 活動計算書			
2021年 4月 1日から 2022年 3月 31日まで			
特定非営利活動法人 自立生活センター STEPえどがわ			
(単位:円)			
科目		金額	
<b>I 経常収益</b>			
1 受取会費			
正会員受取会費			
賛助会員受取会費		3,000	3,000
2 受取寄附金			
受取寄附金		2,385	2,385
3 受取助成金等			
社協助成金(歳末たすけあい運動)【1】絵本作成		233,000	
東京都福祉保健財団(資格支援事業助成金)		7,000	
高齢障害求職者雇用支援機構(住宅助成金)		1,333,176	
高齢障害求職者雇用支援機構(手話通訳・要約筆記等)		9,750	
重度障害者等通勤対策助成金(駐車場助成金)		198,000	
東京都中小企業障害者雇用支援助成金		870,000	
東京都しごと財団(テレワーク助成金)		454,000	
			3,104,926
4 事業収益			
自立支援事業			
体験ルーム利用料	356,625		
介助派遣自費利用			
ピア・カウンセリング講座		356,625	
権利擁護を推進する事業			
イベント収入(参加費、入場料など)	0		
講師謝礼収入	947,048		
その他(バスハイクなど)	50,727	997,775	
総合支援法の障害福祉サービス事業		233,972,466	
介護保険法の居宅介護サービス事業		8,922,618	
居宅介護従事者養成研修事業		639,000	244,888,484
5 雑収入			
		0	0
経常収益計			247,998,795
<b>II 経常費用</b>			
1 事業費			
(1)人件費			
給料手当	142,257,111		
賞与	39,065,573		
通勤交通費	5,596,023		
法定福利費	26,455,980		
福利厚生費	563,413	213,938,100	
(2)その他経費			
保守管理	0		
食材	0		
広告宣伝費	0		
運賃	0		
車両借上げ費	0		
印刷外注費	23,846		
印刷外注費【1】絵本作成	247,140		
会場費	0		
会場設営費	105,000		
賃借料	1,524,000		
修繕費	0		
事務消耗品費	0		
消耗品費	145,534		
水道光熱費	86,892		
旅費交通費	0		

支払手数料	0		
諸謝金	164,316		
情報保障費	43,825		
情報保障費【1】絵本作成	40,000		
支払保険料	0		
租税公課	0		
減価償却費	0		
接待交際費	0		
通信費	193,062		
通信費【1】絵本作成	37,050		
諸会費	0		
車両関連費	0		
新聞図書費			
貸倒引当金繰入			
顧問料			
会議費			
研修費			
リース料			
寄付金			
雑費			
	0		
事業費計		2,610,665	216,548,765
2 管理費			
(1)人件費			
給料手当	7,906,800		
賞与	0		
通勤交通費	20,682		
法定福利費	1,087,170		
福利厚生費	0		
(2)その他経費		9,014,652	
保守管理	369,272		
食材			
広告宣伝費	165,000		
運賃	980		
車両借上げ費			
印刷外注費			
会場費			
会場設営費			
貸借料	7,153,104		
修繕費			
事務消耗品費	5,829		
消耗品費	1,166,120		
水道光熱費	447,338		
旅費交通費	36,281		
支払手数料	188,055		
諸謝金	6,000		
情報保障費			
支払保険料	253,600		
租税公課	72,250		
減価償却費	309,145		
接待交際費	34,400		
通信費	1,095,900		
諸会費	1,395,821		
車両関連費	33,000		
新聞図書費	87,320		
貸倒引当金繰入	51,200		
顧問料	2,766,769		
会議費			
研修費	57,000		
リース料	1,599,272		
寄付金	1,000,000		
雑費	390,321		
	0		
		18,683,977	
管理費計			27,698,629

経常費用計				244,247,394
当期経常増減額				3,751,401
III 経常外収益				
受取利息	9984			
その他	0	9,984		
経常外収益計				9,984
IV 経常外費用				
支払利息	0			
その他	0	0		
経常外費用計				0
税引前当期正味財産増減額				3,761,385
法人税、住民税及び事業税				1,029,000
当期正味財産増減額				2,732,385
前期繰越正味財産額				33,238,436
次期繰越正味財産額				35,970,821

書式第16号(法第28条関係)

2021年度決算 計算書類の注記

特定非営利活動法人 自立生活センターSTEPえどがわ

1. 重要な会計方針  
 計算書類の作成は、会社会計規則 によっています。  
 (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
 当該資産なし  
 (2) 固定資産の減価償却の方法  
 定額法による  
 (3) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理  
 発生主義により会計処理している  
 (4) 消費税等の会計処理  
 税込経理処理
2. 事業別損益の状況

	収益	収益の割合	人件費を収益割合で案分
自立支援	356,625	0.15%	8,131
権利擁護	1,230,775	0.52%	28,060
障害福祉	233,972,466	99.06%	5,334,332
研修	639,000	0.27%	14,569
理事分		0.0%	
合計	236,198,866	100.0%	5,385,092

	事業費	管理部門	
給与手当	142,257,111	7,906,800	150,163,911
賞与	39,065,573		39,065,573
通勤交通費	5,596,023	20,682	5,616,705
法定福利	26,455,980	1,087,170	27,543,150
福利厚生費	563,413		563,413
合計	213,938,100	9,014,652	222,952,752

(単位:円)

科目	自立支援	権利擁護	障害福祉	介護保険	養成研修	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益						0		
1. 受取会費							3,000	3,000
2. 受取寄附金						0	2,385	2,385
3. 受取助成金等		233,000				233,000	2,871,926	3,104,926
4. 事業収益	356,625	997,775	233,972,466	8,922,618	639,000	244,888,484	0	244,888,484
経常収益計	356,625	1,230,775	233,972,466	8,922,618	639,000	245,121,484	2,877,311	247,998,795
II 経常費用								
(1) 人件費								
給料手当	214,787	741,267	140,916,202	0	384,855	142,257,111	7,906,800	150,163,911
賞与	58,983	203,561	38,697,343	0	105,686	39,065,573	0	39,065,573
通勤交通費	8,449	29,160	5,543,275	0	15,139	5,596,023	20,682	5,616,705
法定福利費	39,945	137,856	26,206,607	0	71,573	26,455,980	1,087,170	27,543,150
福利厚生費	851	2,936	558,102	0	1,524	563,413	0	563,413
人件費計	323,015	1,114,780	211,921,529	0	578,777	213,938,100	9,014,652	222,952,752
(2) その他経費								
短期貸付金						0		0
少額減価償却資産 敷金						0		0
長期借入金						0		0
保守管理						0	369,272	369,272
食材						0		0
広告宣伝費						0	165,000	165,000
運賃						0	980	980
車両借上げ費						0		0
印刷外注費	21,350	249,636				270,986		270,986
会場費						0		0
会場設営費		105,000				105,000		105,000
賃借料	1,524,000					1,524,000	7,153,104	8,677,104
修繕費						0		0
事務消耗品費						0	5,829	5,829
消耗品費	29,832				115,702	145,534	1,166,120	1,311,654
水道光熱費	86,892					86,892	447,338	534,230
旅費交通費						0	36,281	36,281
支払手数料						0	188,055	188,055
諸謝金	109,316	10,000			45,000	164,316	6,000	170,316
情報保障費		83,825				83,825		83,825
支払保険料						0	253,600	253,600
租税公課						0	72,250	72,250
減価償却費						0	309,145	309,145
接待交際費						0	34,400	34,400
通信費	193,062	37,050				230,112	1,095,900	1,326,012
諸会費						0	1,395,821	1,395,821
車両関連費						0	33,000	33,000
新聞図書費						0	87,320	87,320
貸倒引当金繰入						0	51,200	51,200
顧問料						0	2,766,769	2,766,769
会議費						0		0
研修費						0	57,000	57,000
リース料						0	1,599,272	1,599,272
寄付金						0	1,000,000	1,000,000

雑費						0	390,321	390,321
法人税等充当額						0	1,029,000	1,029,000
その他経費計	1,964,452	485,511	0	0	160,702	2,610,665	19,712,977	22,323,642
経常費用計	2,287,467	1,600,291	211,921,529	0	739,479	216,548,765	28,727,629	245,276,394
その他収益								
受取利息	0						9,984	9,984
その他費用								
支払利息	0						0	0
当期経常増減額	-1,930,812	-369,516	22,050,937	8,922,618	-100,479	28,572,719	-25,810,331	2,732,385

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

(単位：円)

内容	金額	算定方法
当該 なし		

4. 用途等が制約された寄附金等の内訳

用途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。  
当法人の正味財産は 円ですが、そのうち 円は、下記のように用途が特定されています。  
したがって用途が制約されていない正味財産は 円です。

(単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
当該 なし					
合計					

5. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物付属設備	6,932,709			6,932,709	6,932,704	5
車両運搬具	153,000			153,000	152,999	1
什器備品	3,550,750			3,550,750	3,415,608	135,142
一括売却資産	406,952			406,952	364,952	42,000
リース資産	6,123,600			6,123,600	3,412,080	2,711,520
投資その他の資産						
敷金	1,765,536			1,765,536		1,487,750
保証金	60,000			60,000		70,000
合計	18,992,547	0	0	18,992,547	14,278,343	4,446,418

6. 借入金を増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	2,070,000		2,070,000	0
合計	2,070,000	0	2,070,000	0

7. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位：円)

科目	計算書類に計上された	内役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
活動計算書計		
(貸借対照表)		
貸借対照表計		

8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状況並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

- ・ 事業費と管理費の按分方法  
実額による
- ・ その他の事業に係る資産の状況  
該当なし

## STEPえどがわの活動報告(2021)と活動方針(2022)

### ■2021年度活動報告

コロナの影響が長引き様々な制限がある中でも、昨年度と比べ、その時々々の状況に少しずつ対応し活動に繋がられた。テレワーク環境もさらに整え、在宅での業務やオンライン会議等もよりスムーズに行うことができた。対面での活動としては、感染対策を徹底しつつILP等では少人数にて行うことはできたが、講座やイベント等の大人数での開催は行えず、依然としてコロナ禍を痛感した年度となった。

#### <中止、延期となった主な事業>

1. 集団広域避難シミュレーション  
(中止)江戸川区の保養所「穂高荘」に、宮園バス(大型のリフトバス)を活用して、広域避難シミュレーションを兼ねたバスハイク。
2. ピアカン講座(中止)
3. JILのJICA国際協力事業(延期)  
モンゴル訪問は中止し、オンラインセミナーを開催(海外訪問はコロナ収束後に延期)
4. 定期イベント(中止:花見、夏祭り、BBQ、クリスマス会)

5. 淑徳大学学園祭 ブース出展
6. チャレンジザドリーム
7. バザー

#### <取り組めた事業>

1. 個別相談・ILP
2. 医療的ケア児支援
3. 会議、研修、イベントのオンライン対応  
・情報保障の拡大充実化  
(キャプションライン導入)  
・各種のミーティング、ヘルパー研修  
・映画上映(だっしょうがないじゃない) & トークショー
4. バリアフリー戦隊ダンサナクセイバ  
一絵本製作
5. 江戸川区の介護保障を確立する会の活動
6. EMINBO(江戸川みんなの防災プロジェクト:みんな助かるみんなで助かる)活動
7. えどがわさんしょうがいフォーラム  
加入

## ■2022年度活動方針

今年度は国連の権利委員会による建設的対話(対日審査)が行われ総括所見(勧告)が出される。国内においては、障害者総合支援法の改正をはじめ総括所見をどう活かすかが注目され、法改正の動きがより活発化していく。

また江戸川区は昨年「ともに生きるまちをを目指す条例」を策定しインクルーシブな社会を目指すとしており、この関連でバリアフリー法のマスタープランと基本構想の検討が始まっている。こうした社会背景をwithコロナでの活動としていかに確立していくか、今後の状況を見極めながら慎重かつ積極的に判断していく。

まずはその一つとして、今年度は集団広域避難訓練の実施を計画している。利用者、ヘルパー、その家族、そして関係者等の総勢約50人規模で実施予定。単なる一団体の避難訓練としてだけでなく、多くの関係者を巻き込み検証することで、今後のインクルーシブ防災のモデルとなり得る可能性のある事業として期待する。また情報保障やインクルーシブ教育、まちづくりに寄与するべくバリアフリー演劇の開催、昨年度末に完成したダンサナクセイバー絵本の活用などの事業に取り組む。

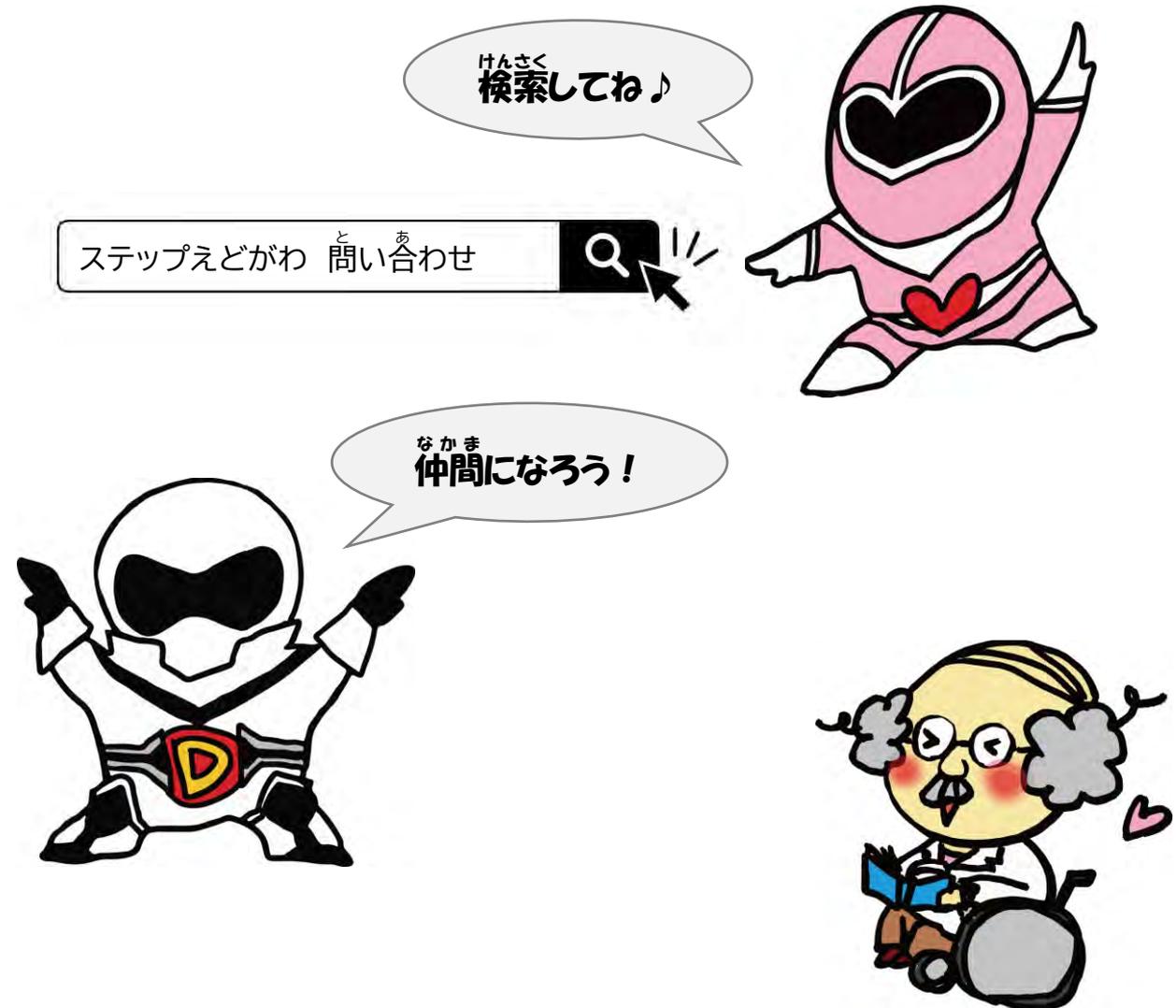
その他、昨年度に取り組みなかった課題はもちろん、継続事業に対しては更に前に進められるよう意識し積極的に活動していく。

1. 個別支援の継続
2. 千葉県ALS患者の自薦ヘルパー獲得支援
3. EMINBO活動・集団広域避難訓練(インクルーシブ防災)
4. 確立する会では行政対応で困った事例の募集とその結果をもとにした支給ガイドラインの見直し交渉
5. 情報保障の充実(テイクア確保、キャプションラインの活用によるよりよい環境の構築)
6. バリアフリー演劇・映画上映
7. ダンサナクセイバー絵本の配布と活用
8. コロナ対策(感染防止対策)
9. 2030STEPえどがわビジョンの提示、ロードマップ作成
10. 脱施設等総括所見を活用した対外事業(総合支援法改正関係、バリアフリー法関係、基本法、差別解消法関係、条約関係等DPI、JILの活動に関連するもの)

### 3) ダンサなくし隊！！

昨年度でも報告しましたが、STEPえどがわでは会員制度をリニューアルし「ダンサなくし隊」としてスタートしました。そのなかで誰もが住みやすい街を目指したMMIプロジェクト「瑞江の街まちを、めっちゃめっちゃ、インクルーシブな街へ」を行っています。

瑞江のお店に段差を解消するためにスロープを置いたり聴覚障害者等とのコミュニケーションを補助する筆談ボードを置かせてもらったりと、誰もがどんな時でも暮らしやすい街づくりを目指した活動です。ここ2年程コロナ禍の影響もあり思うような活動が出来ていませんが、少しずつ通常生活を取り戻してきていますので、STEPえどがわの活動を応援して下さる方を募集しています。





## 選べるサポート形態



### マンスリーサポーター



マンスリーサポーターとは、毎月定額を寄付して頂くことで活動をご支援いただくSTEP えどがわの新会員制度です。



### 正会員、賛助会員



毎年定額を寄付して頂くことで、活動をご支援いただく会員制度です。正会員には総会での議決権があり、STEP えどがわの運営等にも積極的な関与をご希望される方が対象です。



### ご寄付



ご都合のよい時に、ご自由な金額・回数でご寄付いただけます。いただいたご寄付は、誰もが住みやすいインクルーシブなまちづくりに有効に活用させていただきます。

## 詳しくはSTEPえどがわのホームページをチェックしてください♪

「ダンスなくし隊、隊員募集!!!」

<http://www.step-edogawa.com/dansa-nakushitai/>



はっこう  
発行

とくていひえいりかつどうほうじん  
特定非営利活動法人

じりつせいかつ すてつぷ  
自立生活センターSTEPえどがわ

とうきょうとえどがわくみなみしのぎきまち  
〒133-0065 東京都江戸川区南篠崎町3-9-7

でんわ ふあつくす  
TEL 03-3676-7422 FAX 03-3676-7425

うえぶ  
WEB <http://www.step-edogawa.com>

めーる  
Mail [main@step-edogawa.com](mailto:main@step-edogawa.com)

へんしゅう  
編集

しゅうろうけいぞくしえんぴーがたじぎょうしょ  
就労継続支援B型事業所

トリコロレ

とうきょうとえどがわくえどがわ かい  
〒132-0013 東京都江戸川区江戸川2-33-21 1階

でんわ ふあつくす  
TEL 03-6638-9308 FAX 03-6638-9307

うえぶ  
WEB <http://www.tricolore-gp.org>

めーる  
Mail [info@tricolore-gp.org](mailto:info@tricolore-gp.org)